

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患政策研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究

令和 4 年度 総括研究報告書

研究代表者 内 木 宏 延

令和 5 (2023) 年 5 月

目 次

[I] 総括研究報告

アミロイドーシスに関する調査研究	1
研究代表者 内 木 宏 延	

[II] 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍	25
雑誌	26

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
 アミロイドーシスに関する調査研究班 総括研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者 内木 宏延 福井大学学術研究院医学系部門分子病理学分野 教授

研究要旨 われわれは令和2～4年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展させること、(2) 改訂診断基準に基づき、令和3年度に予定されている次回難病法改正にあわせ臨床調査個人票を改訂すること、(3) 各病型診療ガイドライン・ケアマニュアルと共に、新規重症度分類を作成すること、(4) 関連学会と連携してAMED難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(5) 非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施することの5項目を目指す。今年度の成果を上記目的の番号と対応させて記す。(1) 昨年度より2施設多い全国11施設でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。平成30年4月より令和4年11月までの56か月で6166件のコンサルテーションを受け付け、プロテオーム解析と合わせ4778件の病型を確定した。月平均コンサルテーション件数も、昨年度集計時と比べ1.2倍に増加した。(2) 『臨床調査個人票』改定案を、令和4年12月2日難病対策課に提出した。(3) 今回の改訂では、重症度分類の改訂は行わないこととした。(4) 令和2年4月1日より『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究J-COSSA』を開始し、ALアミロイドーシス116症例、ATTRvアミロイドーシス135症例、ATTRwtアミロイドーシス1,297症例、計1,548症例の登録を終えた。登録数は昨年度集計時の1.5倍に増加した。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、日本循環器学会認定113施設が参加している。(5) 松本にて「たんぼぼの会」(FAP患者家族会)をハイブリッド開催した。熊本にて「道しるべの会」(FAP患者・家族会)総会・講演会をハイブリッド開催した。ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナー「アミロイドーシス治療法の最新情報」をウェブ開催した。公開市民講座「トランスサイレチンアミロイドーシス治療と研究の最前線」をウェブ開催した。

研究分担者

安東由喜雄	長崎国際大学薬学部アミロイドーシス病態解析学分野 教授	(医学) 生体総合医療学講座・血液・腫瘍内科学分野 教授
関島良樹	信州大学医学部内科学第三教室(脳神経内科、リウマチ・膠原病内科) 教授	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻脳神経病態制御学講座神経内科学 准教授
植田光晴	熊本大学大学院生命科学研究部脳・神経内科学分野脳神経内科学講座 教授	神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授
島崎千尋	独立行政法人地域医療機能推進機構京都鞍馬口医療センター医局長 名誉院長	東京女子医科大学医学部腎臓内科学 教授・基幹分野長
飯田真介	名古屋市立大学医薬学総合研究院	自治医科大学医学部臨床検査医学講座 教授

奥田恭章	道後温泉病院内科 院長
小野賢二郎	金沢大学医薬保健研究域医学系脳老 化・神経病態学（脳神経内科学） 教授
北岡裕章	高知大学教育研究部医療学系臨床医 学部門老年病・循環器内科学 教授
田原宣広	久留米大学医学部循環器病センター 内科学講座（心臓・血管内科）教授
遠藤 仁	慶應義塾大学医学部循環器内科学教 室 専任講師
大橋健一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合 研究科人体病理学分野 教授
畠山金太	国立循環器病研究センター病理部病 理診断科 部長
安部正博	徳島大学大学院医歯薬学研究部血 液・内分泌代謝内科学 教授
鈴木憲史	日本赤十字社医療センター骨髄腫ア ミロイドーシスセンター 顧問
河野 和	熊本大学大学院生命科学研究部血 液・膠原病・感染症内科学講座 助教
山本 卓	新潟大学医歯学総合病院血液浄化療 法部 病院教授
坂井健二	上越総合病院神経内科 部長

A. 研究目的

われわれは令和2～4年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制を運用・発展させること、(2) 改訂診断基準に基づき、令和3年度に予定されている次回難病法改正にあわせ臨床調査個人票を改訂すること、(3) 各病型診療ガイドライン・ケアマニュアルと共に、新規重症度分類を作成すること、(4) 関連学会と連携してAMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究を実施し、データを用いた疫学研究等を実施すること、(5) 非専門医向けセミナーや患者向けの公開講座等、アミロイドーシスの啓発活動を随時実施することの5項目を目指す。

本研究計画は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）の求める以下の課題を直接解決するものであり、厚生労働行政の施策に直接活用できる成果を期待できると考える。(a) 病

理コンサルテーション体制を中心とするアミロイドーシスの総合的診断体制の運用により、正確な早期診断や、適切な施設での各病型に応じた最新の診療が可能になる。(b) 臨床調査個人票の改訂により、指定難病患者の認定を明確かつ容易に実施できる様になる。(c) アミロイドーシス診断基準・重症度分類・診療ガイドライン等の公表により、アミロイドーシス医療の水準向上（均てん化）に資することが出来る。(d) 難病プラットフォームによるレジストリ研究により、新規に発症するアミロイドーシス患者の実態・予後を正確に把握でき、難病政策を始め、新薬の薬価改定等の基礎資料を提供できる。(e) 関連学会との連携体制を構築し、アミロイドーシスの疾患概念、早期診断、および最新の治療に関し、関連学会や非専門医、患者、一般国民への普及・啓発を推進できる。(f) アミロイドーシス患者ケアマニュアルの作成等により、患者の療養生活環境整備や QOL 向上に資する事ができる。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】

(1)～(4)の各項目は、第1回研究班会議（令和4年8月26日、ウェブ開催）、第2回研究班会議（令和5年3月17日、ウェブ開催）、および各WGで随時開催するウェブ会議で議論・決定した。(5)は研究分担者の関島、植田、鈴木を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(1)に関し、個人情報保護には細心の注意を払った。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与えた。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た（令和4年12月27日 Ver.1.8）。これを基に病理WG各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計した。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しなかった。(4)に関し、京都大学医の倫理審査委員会で中央倫理

審査を受審し承認を得た（令和4年9月12日第8.0版）。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】

(1) 昨年度より2施設多い全国11施設（福井、東京医科歯科、慶應、信州、国立循環器病センター、山口、熊本、日本医科、京都府立医科、東京女子医科、東京都健康長寿医療センター）でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。平成30年4月より令和4年11月までの56か月で6166件のコンサルテーションを受け付け、プロテオーム解析と合わせ4778件の病型を確定した。月平均コンサルテーション件数も、昨年度集計時と比べ1.2倍に増加した。

(2) 『概要、診断基準等』改定案が、指定難病検討委員会で令和4年5月16日に承認された。これに基づき、『臨床調査個人票』改定案を、令和4年12月2日難病対策課に提出した。

(3) 研究班での議論や厚労省のご指導を踏まえ、今回の『概要、診断基準等』、『臨床調査個人票』改訂では、重症度分類の改訂は行わないこととした。

(4) 令和2年4月1日より『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』を開始した。登録開始以来、ALアミロイドーシス116症例、ATTRvアミロイドーシス135症例、ATTRwtアミロイドーシス1,297症例、計1,548症例の登録を終えた。登録数は昨年度集計時の1.5倍に増加した。本研究の一部として、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル処方患者のコホート研究を日本循環器学会と共に実施しており、12月現在、日本循環器学会認定113施設が参加している。昨年度集計時は100施設であった（令和3年12月現在）。

(5) 信州大学脳神経内科（関島良樹班員）が中心となり、令和4年5月松本にて「たんぽぽの会」（FAP患者家族会）をハイブリッド開催した（参加者35名）。熊本大学神経内科（植田光晴班員）が中心となり、令和4年7月熊本にて「道しるべの会」（FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会）総会・講演会をハイブリッド開催した（参加者39名）。日本赤十字社医療センタ

ー骨髓腫アミロイドーシスセンター（鈴木憲史班員）が中心となり、令和4年10月、ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナー「アミロイドーシス治療法の最新情報」をウェブ開催した（参加者120名）。令和4年9月、AMED連携2課題、たんぽぽの会、道しるべの会と合同で、公開市民講座「トランスサイレチンアミロイドーシス治療と研究の最前線」をウェブ開催した（参加者67名）。

D. 考察

【項目番号は研究の目的に対応】

(1) われわれの体制は、全国の新規患者を網羅した悉皆性の高いコンサルテーション体制であると判断できる。

(2) 来年度、『臨床調査個人票』改定案の承認を得た後、改訂『臨床調査個人票』の運用を開始する予定である。

E. 結論

全国11施設でカスタム抗体を共有し、コンサルテーション体制を運用した。『臨床調査個人票』改定案を難病対策課に提出した。『オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 J-COSSA』の登録開始以来、ALアミロイドーシス116症例、ATTRvアミロイドーシス135症例、ATTRwtアミロイドーシス1,297症例、計1,548症例の登録を終えた。松本にて「たんぽぽの会」（FAP患者家族会）をハイブリッド開催した。熊本にて「道しるべの会」（FAP患者・家族会）をハイブリッド開催した。ALアミロイドーシス患者・家族向けセミナー「アミロイドーシス治療法の最新情報」をウェブ開催した。公開市民講座「トランスサイレチンアミロイドーシス治療と研究の最前線」をウェブ開催した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

内木宏延

1) Nakajima K, Yamaguchi K, Noji M, Aguirre C, Ikenaka K, Mochizuki H, Zhou L, Ogi H, Ito

T, Narita I, Gejyo F, Naiki H, Yamamoto S, Goto Y. Macromolecular crowding and supersaturation protect hemodialysis patients from the onset of dialysis-related amyloidosis. *Nat Commun* 13(1): 5689, 2022.

2) Hasegawa K, Uzui H, Fukuoka Y, Miyanaga D, Shiomi Y, Tama N, Ikeda H, Ishida K, Miyazaki S, Sekijima Y, Naiki H, Tada H. Abdominal fat pad fine-needle aspiration for diagnosis of cardiac amyloidosis in patients with non-ischemic cardiomyopathy. *Int Heart J* 63(1): 49-55, 2022.

3) 内木 宏延. いまさら聞けない アミロイドーシスって何? *Medical Technology* 50(9): 996-1000, 2022.

安東由喜雄

1) Tanaka H, Matsushita H, Tokuhiko K, Fukunari A, Ando Y. Ingestion of soybean sprouts containing a HASPIN inhibitor improves condition in a mouse model of alzheimer's disease. *Biology* 12(2): 320, 2023.

2) Nakahara K, Nakane S, Ishii K, Ikeda T, Ando Y. Gut microbiota of parkinson's disease in an appendectomy cohort: a preliminary study. *Sci Rep* 13(1): 2210, 2023.

3) Coelho T, Waddington Cruz M, Chao CC, Parman Y, Wixner J, Weiler M, Barroso FA, Dasgupta NR, Jung SW, Schneider E, Viney NJ, Dyck PJB, Ando Y, Gillmore JD, Khella S, Gertz MA, Obici L, Berk JL. Characteristics of patients with hereditary transthyretin amyloidosis-polyneuropathy (ATTRv-PN) in NEURO-TTRansform, an open-label phase 3 study of eplontersen. *Neurol Ther* 12(1): 267-287, 2023.

4) Yamakawa M, Nakane S, Ihara E, Tawara N, Ikeda H, Igarashi Y, Komohara Y, Takamatsu K, Ikeda T, Tomita Y, Murai S, Ando Y, Mukaino A, Ogawa Y, Ueda M. A novel murine model of autoimmune dysautonomia by $\alpha 3$ nicotinic acetylcholine receptor immunization. *Front Neurosci* 16: 1006923, 2022.

5) Inoue M, Muta K, Mohammed AFA, Onodera R, Higashi T, Ouchi K, Ueda M, Ando Y, Arima H, Jono H, Motoyama K. Feasibility study of dendrimer-based TTR-CRISPR pDNA Polyplex for ocular amyloidosis in vitro. *Biol Pharm Bull* 45(11): 1660-1668, 2022.

6) Inoue M, Higashi T, Hayashi Y, Onodera R, Fujisawa K, Taharabaru T, Yokoyama R, Ouchi K, Misumi Y, Ueda M, Inoue Y, Mizuguchi M, Saito T, Saido TC, Ando Y, Arima H, Motoyama K, Jono H. Multifunctional therapeutic cyclodextrin-appended dendrimer complex for treatment of systemic and localized amyloidosis. *ACS Appl Mater Interfaces* 14(36): 40599-40611, 2022.

7) Mizutani H, Sato Y, Yamazaki M, Yoshizawa T, Ando Y, Ueda M, Yamagata K. SIRT7 deficiency protects against A β (42)-induced apoptosis through the regulation of NOX4-derived reactive oxygen species production in SH-SY5Y cells. *Int J Mol Sci* 23(16): 9027, 2022.

8) Matsushita H, Misumi Y, Masuda T, Okada M, Inoue F, Ueda M, Ando Y. Urinary transthyretin as a biomarker in ATTRv Val50Met amyloidosis. *Pathophysiology* 29(3): 333-343, 2022.

9) Taniguchi A, Shindo A, Tabei KI, Onodera O, Ando Y, Urabe T, Kimura K, Kitagawa K, Miyamoto Y, Takegami M, Ihara M, Mizuta I, Mizuno T, Tomimoto H. Imaging characteristics for predicting cognitive impairment in patients with cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy. *Front Aging Neurosci* 14: 876437, 2022.

10) Nakajima M, Watari M, Ando Y, Ueda M. Asymptomatic deep venous thrombosis identified on routine screening in patients with hospitalized neurological diseases. *J Clin Neurosci* 102: 13-20, 2022.

11) Tanaka H, Nishida-Fukuda H, Wada M, Tokuhiko K, Matsushita H, Ando Y. Inhibitory effect of the HASPIN Inhibitor CHR-6494 on BxPC-3-Luc, a luciferase-expressing pancreatic cancer cell line. *Cell J* 24(4): 212-214, 2022.

12) 安東 由喜雄. 「アリスのままに」にみる遺伝子診断の重さ. *Brain and Never* 74(12): 1331-1334, 2022.

関島良樹

1) Ando Y, Adams D, Benson MD, Berk JL, Planté-Bordeneuve V, Coelho T, Conceição

- I, Ericzon BG, Obici L, Rapezzi C, Sekijima Y, Ueda M, Palladini G, Merlini Gi. Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis. *Amyloid* 29(3): 143-155, 2022.
- 2) Buxbaum JN, Dispenzieri A, Eisenberg DS, Fändrich M, Merlini G, Saraiva MJM, Sekijima Y, Westermark P. Amyloid nomenclature 2022: update, novel proteins, and recommendations by the International Society of Amyloidosis (ISA) Nomenclature Committee. *Amyloid* 29(4): 213-219, 2022.
- 3) Hasegawa K, Uzui H, Fukuoka Y, Miyanaga D, Shiomi Y, Tama N, Ikeda H, Ishida K, Miyazaki S, Sekijima Y, Naiki H, Tada H. Abdominal Fat Pad Fine-Needle Aspiration for Diagnosis of Cardiac Amyloidosis in Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy. *Int Heart J* 63(1): 49-55, 2022.
- 4) Ichimata S, Hata Y, Katoh N, Kametani F, Yazaki M, Sekijima Y, Nishida N. Novel histopathological deposition patterns of EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 amyloidosis: an autopsy case exhibiting a possible association between AEFEMP1 amyloidosis and elastic fibres. *Amyloid* 29(2): 139-140, 2022.
- 5) Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Kusama Y, Sano K, Uehara T, Sekijima Y. Somatostatin-derived amyloid deposition associated with duodenal neuroendocrine tumour (NET): a report of novel localised amyloidosis associated with NET. *Amyloid* 29(1): 64-65, 2022.
- 6) Ohashi N, Katoh N, Kasuga K, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Sekijima Y. AH amyloid neuropathy: a novel clinical phenotype confirmed by histopathology and mass spectrometry. *Amyloid* 29(2): 141-142, 2022.
- 7) Takahashi Y, Ohashi N, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Roberts M, Glidden PF, Sekijima Y. CSF/plasma levels, transthyretin stabilisation and safety of multiple doses of tolcapone in subjects with hereditary ATTR amyloidosis. *Amyloid* 29(3): 190-196, 2022.
- 8) Ueno A, Katoh N, Ezawa N, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y. Therapeutic Outcome of Lenalidomide-dexamethasone in Patients with Relapsed or Refractory Systemic Immunoglobulin Light Chain (AL) Amyloidosis: A Single-center Analysis and Review of the Literature. *Shinshu Med J* 70(1): 29-38, 2022.
- 9) 柴田 有花, 松嶋 理明, 加藤 ももこ, 張 香理, 中村 勝哉, 織田 克利, 吉田 邦広, 関島 良樹, 戸田 達史, 矢部 一郎. 成人発症の遺伝性神経・筋疾患における発症前診断の全国調査—治療法確立時代の体制構築に向けて—. *臨床神経学* 62(10): 773-780, 2022.
- 10) 関島 良樹. 核酸医薬を用いたトランスサイレチン型アミロイドーシス治療. *DEMENTIA JAPAN* 36(2): 258-264, 2022.
- 11) 関島 良樹. アミロイドーシス. 福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成. *今日の治療方針 私はこう治療している*. 医学書院, 東京, 776-777, 2022.
- 植田光晴**
- 1) Kinoshita Y, Ikeda T, Miyamura T, Ueda Y, Yoshida Y, Ueda M, Haraoka S, Kushima H, Ishii H. Nodular Pulmonary Amyloidosis Associated with Sjögren's Syndrome. *Intern Med* 61: 877-881, 2022.
- 2) Takashio S, Yamada T, Nishi M, Morioka M, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Kaikita K, Tsujita K. Sex-related differences in the clinical characteristics of wild-type transthyretin amyloidosis cardiomyopathy. *J Cardiol* 79: 50-57, 2022.
- 3) Benson MD, Berk JL, Dispenzieri A, Damy T, Gillmore JD, Hazenberg BP, Lavatelli F, Picken MM, Röcken C, Schönland S, Ueda M, Westermark P. Tissue biopsy for the diagnosis of amyloidosis: experience from some centres. *Amyloid* 29: 8-13, 2022.
- 4) Takahashi K, Sasaki D, Yamashita M, Sakaue T, Enomoto D, Morioka H, Uemura S, Okura T, Ikeda S, Kono T, Hiratsuka Y, Saijo A, Yamamura N, Kitazawa S, Yamashita T, Ueda M. Amyloid deposit corresponds to technetium-99m pyrophosphate accumulation in abdominal fat of patients with transthyretin cardiac amyloidosis. *J Nucl Cardiol* 29:

- 3126-3136, 2022.
- 5) Tasaki M, Oishi T, Ueda M. EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 (EFEMP1) amyloid deposits in the lower rectum from aged patient with bloody stools. *Pathol Int* 72: 217-218, 2022.
- 6) Hayashi H, Oda S, Kidoh M, Nakaura T, Morita K, Nagayama Y, Yoneda T, Takashio S, Misumi Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T. Can myocardial susceptibility quantification be an imaging biomarker for cardiac amyloidosis? *Jpn J Radiol* 40: 500-507, 2022.
- 7) Yumoto S, Doi K, Higashi T, Shimao Y, Ueda M, Ishihara A, Adachi Y, Ishiodori H, Honda S, Baba H. Intra-abdominal bleeding caused by amyloid transthyretin amyloidosis in the gastrointestinal tract: a case report. *Clin J Gastroenterol* 15: 140-145, 2022.
- 8) Takashio S, Tokitsu T, Matsukawa M, Sakaino N, Fujimoto K, Sakamoto T, Noda K, Tsunoda R, Misumi I, Hirai N, Doi H, Koide S, Mizuno Y, Hirose T, Kurokawa H, Kajiwara I, Ohba K, Miyamoto S, Araki S, Yamamoto E, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K; Kumamoto Cardiac Amyloid Survey Investigators. Incidence, clinical characteristics, and diagnostic approach in transthyretin amyloid cardiomyopathy: The Kumamoto Cardiac Amyloidosis Survey. *J Cardiol* 80: 49-55, 2022.
- 9) Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Ikura H, Sano M, Tasaki M, Sakai S, Ueda M, Fukuda K. Step-by-step typing for the accurate diagnosis of concurrent light chain and transthyretin cardiac amyloidosis. *ESC Heart Fail* 9: 1474-1477, 2022.
- 10) Ikura H, Kitakata H, Endo J, Moriyama H, Sano M, Tsujikawa H, Sawano M, Masuda T, Ohki T, Ueda M, Kosaki K, Fukuda K. Three patients of transthyretin amyloidosis in a Japanese family with amyloidogenic transthyretin Thr49Ser (p.Thr69Ser) variant. *Eur J Med Genet* 65: 104451, 2022.
- 11) Usuku H, Takashio S, Yamamoto E, Yamada T, Egashira K, Morioka M, Nishi M, Komorita T, Oike F, Tabata N, Ishii M, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Arima Y, Araki S, Oda S, Misumi Y, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K. Prognostic value of right ventricular global longitudinal strain in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Cardiol* 80: 56-63, 2022.
- 12) Inoue Y, Nakajima M, Inatomi Y, Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Uetani H, Hirai T, Ueda M. Reversible periventricular hyperintensity lesions in cerebral amyloid angiopathy (CAA): A case mimicking CAA-related inflammation. *Intern Med* 61: 3581-3584, 2022.
- 13) Oike F, Usuku H, Yamamoto E, Marume K, Takashio S, Ishii M, Tabata N, Fujisue K, Yamanaga K, Sueta D, Hanatani S, Arima Y, Araki S, Oda S, Kawano H, Soejima H, Matsushita K, Ueda M, Fukui T, Tsujita K. Utility of left atrial and ventricular strain for diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy in aortic stenosis. *ESC Heart Fail* 9: 1976-1986, 2022.
- 14) Nakashima N, Takashio S, Morioka M, Nishi M, Yamada T, Hirakawa K, Ishii M, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Kanazawa H, Hoshiyama T, Hanatani S, Araki S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Tsujita K. A simple staging system using biomarkers for wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan. *ESC Heart Fail* 9: 1731-1739, 2022.
- 15) Kawano Y, Hata H, Takashio S, Tsujita K, Ueda M, Matsuoka M. Daratumumab, lenalidomide and dexamethasone in newly diagnosed systemic light chain amyloidosis patients associated with multiple myeloma. *Br J Haematol* 198: e38-e41, 2022.
- 16) Tasaki M, Nomura T, Uchiyama K, Misumi Y, Nakahara K, Oyama Y, Uesugi N, Ueda M. Fibrinogen Aalpha-chain amyloidosis associated with a rare frameshift pathogenic variant p.Arg547GlyfsTer21. *Amyloid* 29: 276-277, 2022.
- 17) Nishi M, Takashio S, Morioka M, Fujiyama A, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Kidoh M, Oda S, Gushima R, Matsushita K, Fukushima S, Ueda M, Tsujita K. Extracardiac biopsy sensitivity in transthyretin amyloidosis cardiomyopathy patients with positive ^{99m}Tc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings. *Circ J* 86: 1113-1120, 2022.
- 18) Morioka M, Takashio S, Nakashima N, Nishi M, Fujiyama A, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H,

- Yamamoto E, Kidoh M, Oda S, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K. Correlation between cardiac images, biomarkers, and amyloid load in wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Am Heart Assoc* 11: e024717, 2022.
- 19) Tahara N, Honda A, Ueda M, Fukumoto Y. Popeye's sign and transthyretin amyloidosis. *Eur Heart J* 43: 3000, 2022.
- 20) Matsushita H, Misumi Y, Masuda T, Okada M, Inoue F, Ueda M, Ando Y. Urinary transthyretin as a biomarker in ATTRv amyloidosis. *Pathophysiology* 29: 333-343, 2022.
- 21) Tasaki M, Misumi Y, Nomura T, Kamba T, Ueda M. Detection of semenogelin 1 amyloidosis through immunohistochemical staining with novel antibodies developed based on mass spectrometric peptide mapping analysis. *Amyloid* 29: 278-280, 2022.
- 22) Iwahashi N, Ikezaki M, Komohara Y, Fujiwara Y, Noguchi T, Nishioka K, Sakai K, Nishio K, Ueda M, Ihara Y, Uchimura K, Ino K, Nishitsuji K. Cytoplasmic p53 aggregates accumulated in p53-mutated cancer correlate with poor prognosis. *PNAS Nexus* 1: pgac128, 2022.
- 23) Misumi Y, Ando Y, Ueda M. Early transverse tubule involvement in cardiomyocytes in hereditary transthyretin amyloidosis; A possible cause of cardiac events. *Cardiovasc Pathol* 61: 107458, 2022.
- 24) Inoue Y, Tasaki M, Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Ando Y, Ueda M. α -Enolase reduces cerebrovascular A β deposits by protecting A β amyloid formation. *Cell Mol Life Sci* 79: 462, 2022.
- 25) Mizutani H, Sato Y, Yamazaki M, Yoshizawa T, Ando Y, Ueda M, Yamagata K.* SIRT7 deficiency protects against A β 42-induced apoptosis through the regulation of NOX4-derived reactive oxygen species production in SH-SY5Y cells. *Int J Mol Sci* 23: 9027, 2022.
- 26) Ando Y, Adams D, Benson MD, Berk J, Planté-Bordeneuve V, Coelho T, Conceição I, Ericzon B, Obici L, Rapezzi C, Sekijima Y, Ueda M, Palladini G, Merlini G. Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis. *Amyloid* 29: 143-155, 2022.
- 27) Inoue M, Muta K, Fouad A, Mohammed A, Onodera R, Higashi T, Ueda M, Ando Y, Arima H, Jono H, Motoyama K. Potential use of Dendrimer-based TTR-CRISPR pDNA polyplex for ocular amyloidosis. *Biol Pharm Bull* 45: 1660-1668, 2022.
- 28) Inoue M, Higashi T, Hayashi Y, Onodera R, Fujisawa K, Taharabaru T, Yokoyama R, Ouchi K, Misumi Y, Ueda M, Inoue Y, Mizuguchi M, Saito T, Saido T, Ando Y, Arima H, Motoyama K, Jono H. Multifunctional therapeutic cyclodextrin-appended dendrimer complex for treatment of systemic and localized amyloidosis. *ACS Appl Mater Interfaces* 14: 40599-40611, 2022.
- 29) Yagita K, Noguchi H, Koyama S, Hamasaki H, Komori T, Aishima S, Kosaka T, Ueda M, Komohara Y, Watanabe A, Sasagasako N, Ninomiya T, Oda Y, Honda H. Chronological changes in the expression pattern of hippocampal prion proteins during disease progression in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease MM1 subtype. *J Neuropathol Exp Neurol* 81: 900-909, 2022.
- 30) Shinriki S, Hirayama M, Nagamachi A, Yokoyama A, Kawamura T, Kanai A, Kawai H, Iwakiri J, Riu L, Maeshiro M, Tungalag S, Tasaki M, Ueda M, Tomizawa K, Kataoka N, Ideue T, Suzuki Y, Asai K, Tani T, Inaba T, Matsui H. DDX41 coordinates RNA splicing and transcriptional elongation to prevent DNA replication stress in hematopoietic cells. *Leukemia* 36: 2605-2620, 2022.
- 31) Usuku H, Yamamo E, Sueta D, Noguchi M, Fujisaki T, Egashira K, Morioka M, Komorita T, Oike F, Fujisue K, Hanatani S, Arima Y, Takashio S, Oda S, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K. Time-dependent change of relative apical longitudinal strain index in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy. *Int J Cardiol Heart Vasc* 43, 101146, 2022.
- 32) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee H, Russo E, Kubo T. 99mTechnetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9: 251-262,

2022.

33) Ueda M. Transthyretin: its function and amyloid formation. *Neurochem Int* 155: 105313, 2022.

34) Kidoh M, Oda S, Takashio S, Hirakawa K, Kawano Y, Shiraishi S, Hayashi H, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T. Diagnostic performance of CT-derived extracellular volume fraction versus myocardium-to-lumen signal ratio for detecting cardiac amyloidosis. *Radiology* 306: e220542, 2023.

35) Goto M, Tasaki M, Ueda M. Early onset Congo red-positive fibrillary glomerulonephritis associated with glomerular DNAJB9 deposits mimicking renal amyloidosis. *Pathol Int* 73: 106-108, 2023.

36) Misumi Y, Tabata Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamakawa S, Nomura T, Ueda M. Binding of serum-derived amyloid-associated proteins to amyloid fibrils. *Amyloid* 30: 67-73, 2023.

37) Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y. Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Nucl Cardiol* 30: 403-404, 2023.

島崎千尋

1) Suzuki K, Wechalekar AD, Kin K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu L. Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA. *Ann Hematol* 102(4): 863-876, 2023.

2) Muramatsu A, Kobayashi T, Kawaji-Kanayama Y, Uchiyama H, Sasaki N, Uoshima N, Nakao M, Takahashi R, Shimura K, Kaneko H, Kiyota M, Wada K, Chinen Y, Hirakawa K, Fuchida SI, Shimazaki C, Mizutani S, Tsukamoto T, Shimura Y, Taniwaki M, Teramukai S, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology Study Group (KOTOSG) Investigators. Pretreatment serum level of interleukin-6 predicts carfilzomib-

induced hypertension in relapsed/refractory multiple myeloma. *Leuk Lymphoma* 63(7): 1678-1685, 2022.

3) Kawaji-Kanayama Y, Muramatsu A, Sasaki N, Shimura K, Kiyota M, Fuchida S, Isa R, Fujino T, Matsumura-Kimoto Y, Tsukamoto T, Chinen Y, Mizutani S, Nakao M, Kaneko H, Kawata E, Hirakawa K, Takahashi R, Shimazaki C, Uchiyama H, Uoshima N, Shimura Y, Kobayashi T, Taniwaki M, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology Study Group (KOTOSG) Investigators. Clinical impacts of frailty, poor performance status, and advanced age in carfilzomib-containing treatment for relapsed/refractory multiple myeloma: post hoc investigation of the KOTOSG multicenter pilot prospective observational study. *Int J Hematol* 115(3): 350-362, 2022.

4) Sunami K, Ikeda T, Huang SY, Wang MC, Koh Y, Min CK, Yeh SP, Matsumoto M, Uchiyama M, Iyama S, Shimazaki C, Lee JH, Kim K, Kaneko H, Kim JS, Lin TL, Campana F, Tada K, Iida S, Suzuki K; ICARIA-MM study group. Isatuximab-pomalidomide-dexamethasone versus pomalidomide-dexamethasone in East Asian patients with relapsed/refractory multiple myeloma: ICARIA-MM subgroup analysis. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 22(8): e751-e761, 2022.

5) Onda Y, Kanda J, Kaneko H, Shimura Y, Fuchida SI, Nakaya A, Ito T, Yamamura R, Tanaka H, Shibayama H, Shimazu Y, Uchiyama H, Yoshihara S, Adachi Y, Matsuda M, Hanamoto H, Uoshima N, Kosugi S, Ohta K, Yagi H, Kanakura Y, Matsumura I, Hino M, Nomura S, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J; Kansai Myeloma Forum. Real-world effectiveness and safety analysis of carfilzomib-lenalidomide-dexamethasone and carfilzomib-dexamethasone in relapsed/refractory multiple myeloma: a multicenter retrospective analysis. *Ther Adv Hematol* 13: 20406207221104584, 2022.

6) Shimazu Y, Kanda J, Kaneko H, Imada K, Yamamura R, Kosugi S, Shimura Y, Ito T, Fuchida SI, Uchiyama H, Fukushima K, Yoshihara S, Hanamoto H, Tanaka H, Uoshima N, Ohta K, Yagi H, Shibayama H, Onda Y, Tanaka Y, Adachi Y, Matsuda M, Iida M, Miyoshi T, Matsui T, Takahashi R, Takakuwa T, Hino

M, Hosen N, Nomura S, Shimazaki C, Matsumura I, Takaori-Kondo A, Kuroda J; Kansai Myeloma Forum. Monocyte or white blood cell counts and β_2 microglobulin predict the durable efficacy of daratumumab with lenalidomide. *Ther Adv Hematol* 13: 20406207221142487, 2022.

7) Imashuku S, Tsunemine H, Shimazaki C. 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/ computed tomography delineates involved sites in the cervical spine in Langerhans cell histiocytosis. *EJHaem* 3(3): 1042-1043, 2022.

飯田真介

1) Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Suzuki K, Handa H, Shibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K. Two-year outcomes of triabrutinib monotherapy in Wandenstrom's macroglobulinemia. *Cancer Sci* 113(6): 2085-2095, 2022.

2) Usmani SZ, Nahi H, Legiec W, Grosicki S, Vorobyev V, Spicka I, Hungria V, Korenkova S, Bahlis NJ, Flogegard M, Blade J, Moreau P, Kaiser M, Iida S, Laubach J, Magen H, Cavo M, Hulin C, White D, Stefano VD, Lantz K, O'Rourke L, Heuck C, Delioukina M, Qin X, Nnane I, Qi M, Mateos M-V. Final analysis of the phase 3 non-inferiority COLUMBA study of subcutaneous versus intravenous daratumumab in patients with relapsed or refractory multiple myeloma. *Haematologica* 107(10): 2408-2417, 2022.

3) Murakami S, Ri M, Ito M, Nakamura N, Kasahara S, Kitagawa J, Inagaki Y, Kuroda J, Yoshimitsu M, Okamoto A, Fukuhara N, Taji H, Iida H, Nagai H, Hanamura I, Tsujimura H, Okura M, Kurata M, Kuwatsuka Y, Atsuta Y, Iida S. Efficacy and safety of modified BLD therapy for transplant-ineligible Japanese patients with multiple myeloma. *Int J Hematol* 116(4): 563-569, 2022.

4) Maruyama D, Iida S, Machida R, Kusumoto S, Fukuhara S, Yamauchi N, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno I, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I,

Suzuki Y, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Fukuhara S, Tobinai Km Tsukasaki K, Nagai H. Final analysis of randomized phase II study to optimize melphalan, prednisolone, and bortezomib in untreated multiple myeloma (JCOG1105). *Cancer Sci* 113(9): 3267-3270, 2022.

5) 飯田真介. 特集 骨髄腫と類縁疾患 全身をみわたす診断・治療 Overview 骨髄腫の治療の概要. *内科* 130(4): 701-706, 2022.

6) 飯田真介. IX. 多発性骨髄腫と類縁疾患 多発性骨髄腫と類縁疾患の診かた. *日本医師会雑誌* 151: S286-S288, 2022.

小池春樹

1) Koike H, Nishi R, Yagi S, Furukawa S, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M. A review of anti-IL-5 therapies for eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. *Adv Ther* 40(1): 25-40, 2023.

2) Koike H, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M. Early ultrastructural lesions of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-versus complement-associated vasculitis. *Neuropathology* 42(5): 420-429, 2022.

3) Koike H, Nishi R, Ohyama K, Morozumi S, Kawagashira Y, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. ANCA-Associated Vasculitic Neuropathies: A Review. *Neurol Ther* 11(1): 21-38, 2022.

4) Koike H, Nishi R, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M. In vivo visualization of eosinophil secretion in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: An ultrastructural study. *Allergol Int* 71(3): 373-382, 2022.

5) Koike H, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M. Dosage effects of PMP22 on nonmyelinating Schwann cells in hereditary neuropathy with liability to pressure palsies. *Neuromuscul Disord* 32(6): 503-511, 2022.

6) Adams D, Tournev IL, Taylor MS, Coelho T, Planté-Bordeneuve V, Berk JL, González-Duarte A, Gillmore JD, Low SC, Sekijima Y, Obici L, Chen C, Badri P, Arum SM, Vest J, Polydefkis M, HELIOS-A Collaborators (including Koike H). Efficacy and safety

- of vutrisiran for patients with hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: a randomized clinical trial. *Amyloid* 30(1): 18-26, 2023.
- 7) Fukami Y, Koike H, Katsuno M. Current perspectives on the diagnosis, assessment, and management of vasculitic neuropathy. *Expert Rev Neurother* 22(11-12): 941-952, 2022.
- 8) Murakami A, Noda S, Kazuta T, Hirano S, Kimura S, Nakanishi H, Matsuo K, Tsujikawa K, Iida M, Koike H, Sakamoto K, Hara Y, Kuru S, Kadomatsu K, Shimamura T, Ogi T, Katsuno M. Metabolome and transcriptome analysis on muscle of sporadic inclusion body myositis. *Ann Clin Transl Neurol* 9(10): 1602-1615, 2022.
- 9) Noda S, Murakami A, Kazuta T, Hirano S, Kimura S, Nakanishi H, Matsuo K, Tsujikawa K, Yamada S, Iida M, Koike H, Kuru S, Katsuno M. Clinical implication of denervation in sporadic inclusion body myositis. *J Neurol Sci* 439: 120317, 2022.
- 10) Fukami Y, Koike H, Iijima M, Mouri N, Nishi R, Katsuno M. Role of complement components in vasculitic neuropathy associated with systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis. *Muscle Nerve* 66(2): 175-182, 2022.
- 11) Tsujikawa K, Hamanaka K, Riku Y, Hattori Y, Hara N, Iguchi Y, Ishigaki S, Hashizume A, Miyatake S, Mitsunashi S, Miyazaki Y, Kataoka M, Jiayi L, Yasui K, Kuru S, Koike H, Kobayashi K, Sahara N, Ozaki N, Yoshida M, Kakita A, Saito Y, Iwasaki Y, Miyashita A, Iwatsubo T; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI), Ikeuchi T; Japanese Longitudinal Biomarker Study in PSP and CBD (JALPAC) Consortium, Miyata T, Sobue G, Matsumoto N, Sahashi K, Katsuno M. Actin-binding protein filamin-A drives tau aggregation and contributes to progressive supranuclear palsy pathology. *Sci Adv* 8(21): eabm5029, 2022.
- 12) Hsueh HW, Chao CC, Chang K, Jeng YM, Katsuno M, Koike H, Hsieh ST. Unique Phenotypes With Corresponding Pathology in Late-Onset Hereditary Transthyretin Amyloidosis of A97S vs. V30M. *Front Aging Neurosci* 13: 786322, 2022.
- 13) Jozuka R, Kimura H, Uematsu T, Fujigaki H, Yamamoto Y, Kobayashi M, Kawabata K, Koike H, Inada T, Saito K, Katsuno M, Ozaki N. Severe and long-lasting neuropsychiatric symptoms after mild respiratory symptoms caused by COVID-19: A case report. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(1): 114-119, 2022.
- 14) 小池 春樹. 失調性多発ニューロパチー. *脳神経内科* 98(1): 100-105, 2023.
- 15) 小池 春樹. Charcot-Marie-Tooth 病の末梢神経病理. *脳神経内科* 96(6): 758-763, 2022.
- 16) 小池 春樹. 現代の視点から見た末梢神経病理学. *脳神経内科* 33(2): 202-207, 2022.
- 17) 古川 宗磨, 小池 春樹, 勝野 雅央. 頭痛の分類と新しい診断治療戦略. *現代医学* 69(1): 30-35, 2022.
- 西 慎一**
- 1) 西 慎一. 透析患者特有に特有な痛みへの対応 透析関連痛. *臨床透析* 38(9): 1211-1215, 2022.
- 2) 西 慎一. XII 維持透析患者にみられる病態 透析アミロイドーシス. 柏原 直樹他編, *別冊日本臨床領域別症候群シリーズ* 25, 日本臨床社, 東京, 190-194, 2022.
- 星野純一**
- 1) Hatano M, Anno M, Miyoshi K, Isawa K, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y, Nakamura M, Yamamoto S, Kitajima I. A Novel Grading System of Destructive Lumbar Spondyloarthropathy Based on Evaluation of the Facet Joints. *Spine* 47(17): 1227-1233, 2022.
- 2) Iijima T, Sawa N, Nakayama Y, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Wake A, Kono K, Hoshino J, Ubara Y, Ohashi K. Vincristine, Doxorubicin, and Dexamethasone Induction before Autologous Stem Cell Transplantation in Patients with AL Amyloidosis: A Retrospective Comparison with Frontline Stem Cell Transplantation. *Intern Med* 61(19): 2853-2860, 2022
- 3) Hatano M, Kitajima I, Yamamoto S, Nakamura M, Isawa K, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y. Dialysis-related carpal tunnel syndrome in the past 40 years. *Clin Exp Nephrol* 26(1): 68-74, 2022.

山田俊幸

1) Imoto M, Kamisako T, Watanabe K, Yamada T. Study on the mechanism of false low measurement of IgG-binding (affinity) IgM type M protein by turbidimetric immunoassay. *Clin Lab* 68: 2517-2525, 2022.

2) Mukai H, Miura Y, Kotani K, Kotoda A, Kurosu H, Yamada T, Kuro-O M, Iwazu Y. The effects for inflammatory responses by CPP with different colloidal properties in hemodialysis patients. *Sci Rep* 12(1): 21856, 2022.

奥田恭章

1) 奥田 恭章. 総論 01 AA アミロイドーシス診療マニュアル. 金芳堂, AA アミロイドーシス診療ファイル 難治性炎症性診療のエッセンス 2-10: 2022.

小野賢二郎

1) Momma Y, Tsuji M, Oguchi T, Ohashi H, Nohara T, Ito N, Yamamoto K, Nagata M, Kimura AM, Nakamura S, Kiuchi Y, Ono K. The Curcumin Derivative GT863 Protects Cell Membranes in Cytotoxicity by A β Oligomers. *Int J Mol Sci* 24: 3089, 2023.

2) Ikeuchi T, Kanda M, Kitamura H, Morikawa F, Toru S, Nishimura C, Kasuga K, Tokutake T, Takahashi T, Kuroha Y, Miyazawa N, Tanaka S, Utsumi K, Ono K, Yano S, Hamano T, Naruse S, Yajima R, Kawashima N, Kaneko C, Tachibana H, Yano Y, Kato Y, Toue S, Jinzu H, Kitamura A, Yokoyama Y, Kaneko E, Yamakado M, Nagao K. Decreased circulating branched-chain amino acids are associated with development of Alzheimer's disease in elderly individuals with mild cognitive impairment. *Front Nutr* 9: 1040476, 2022.

3) Kainuma M, Ouma S, Kawakatsu S, Iritani O, Yamashita KI, Ohara T, Hirano S, Suda S, Hamano T, Hieda S, Yasui M, Yoshiiwa A, Shiota S, Hironishi M, Wada-Isoe K, Sasabayashi D, Yamasaki S, Murata M, Funakoshi K, Hayashi K, Shirafuji N, Sasaki H, Kajimoto Y, Mori Y, Suzuki M, Ito H, Ono K, Tsuboi Y. An exploratory, open-label, randomized, multicenter

trial of hachimijiogan for mild Alzheimer's disease. *Front Pharmacol* 13: 991982, 2022.

4) Murakami K, Ono K. Interactions of amyloid coaggregates with biomolecules and its relevance to neurodegeneration. *FASEB J* 36: e22493, 2022.

5) Hamaguchi T, Ono K, Yamada M. Transmission of Cerebral β -Amyloidosis Among Individuals. *Neurochem Res* 47: 2469-2477, 2022.

6) Ohashi H, Tsuji M, Oguchi T, Momma Y, Nohara T, Ito N, Yamamoto K, Nagata M, Kimura AM, Kiuchi Y, Ono K. Combined Treatment with Curcumin and Ferulic Acid Suppressed the A β -Induced Neurotoxicity More than Curcumin and Ferulic Acid Alone. *Int J Mol Sci* 23: 9685, 2022.

7) Hikishima S, Sakai K, Akagi A, Yamaguchi H, Shibata S, Hayashi K, Nakano H, Kanemoto M, Usui Y, Taniguchi Y, Komatsu J, Nakamura-Shindo K, Nozaki I, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Yamada M. Deterioration after Liver Transplantation and Transthyretin Stabilizer Administration in a Patient with ATTRv Amyloidosis with a Leu58Arg (p.Leu78Arg) TTR Variant. *Intern Med* 61: 2347-2351, 2022.

8) Watanabe-Nakayama T, Ono K. Single-molecule observation of self-propagating amyloid fibrils. *Microscopy (Oxf)* 71: 133-141, 2022.

北岡裕章

1) Ochi Y, Kubo T, Baba Y, Sugiura K, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Hamada T, Yamasaki N, Kitaoka H. Early experience of tafamidis treatment in Japanese patients with wild-type transthyretin cardiac amyloidosis from the Kochi Amyloidosis Cohort. *Cir J* 86(7): 1121-1128, 2022.

2) 北岡 裕章. 診断し最適な治療を行う 心筋症診療ガイドラインのポイント 特発性と二次性を見分ける. *Medical Practice* 39(9): 1286-1294, 2022.

3) 北岡 裕章. 心筋症. *日本臨床* 80(7): 1120-1126, 2022.

田原宣広

1) Kuwana M, Abe K, Kinoshita H, Matsubara H, Minatsuki S, Murohara T, Sakao S, Shirai Y, Tahara N,

- Tsujino I, Takahashi K, Kanda S, Ogo T. Efficacy, safety, and pharmacokinetics of inhaled treprostinil in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension. *Pulm Circ* 13(1): e12198, 2023.
- 2) Tahara A, Tahara N, Sugiyama Y, Honda A, Fukumoto Y. Multimodal imaging of pulmonary artery involvement in large vessel vasculitis. *Eur Heart J Case Rep* 7(2): yta039, 2023.
- 3) Suda K, Tahara N, Bekki M, Nakamura T, Honda A, Kishimoto S, Kagiya Y, Iemura M, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y. Ongoing vascular inflammation evaluated by ¹⁸F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients long after Kawasaki disease. *J Nucl Cardiol* 30(1): 264-275, 2023.
- 4) Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y. Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *J Nucl Cardiol* 30(1): 403-404, 2023.
- 5) Imai S, Tahara N, Igata S, Tahara A, Bekki M, Sugiyama Y, Maeda-Ogata S, Honda A, Otsuka H, Ushijima T, Okabe Y, Kaida H, Abe T, Tanaka H, Fukumoto Y, Tayama E. Vascular/perivascular inflammation in IgG4-related disease. *J Nucl Cardiol* 29(6): 2920-2933, 2022.
- 6) Maeda-Ogata S, Tahara N, Bekki M, Tahara A, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Abe T, Ueda M, Ando Y, Hirooka Y, Fukumoto Y. Carpal tunnel syndrome as an early red-flag sign of ATTRwt amyloidosis. *J Nucl Cardiol* 29(6): 3562-3563, 2022.
- 7) Tahara N, Sugiyama Y, Tahara A, Bekki M, Maeda-Ogata S, Honda A, Igata S, Abe T, Fukumoto Y. Reverse remodeling of small pulmonary arteries and right ventricle in pulmonary arterial hypertension. *J Nucl Cardiol* 29(6): 3615-3618, 2022.
- 8) Tahara N, Tahara A, Bekki M, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Oba T, Abe T, Fukumoto Y. Cardiac sarcoidosis with thickening myocardium. *J Nucl Cardiol* 29(6): 3619-3622, 2022.
- 9) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Sugiyama Y, Maeda-Ogata S, Honda A, Igata S, Enomoto M, Kakuma T, Kaida H, Abe T, Fukumoto Y. Localization of myocardial FDG uptake for prognostic risk stratification in corticosteroid-naïve cardiac sarcoidosis. *J Nucl Cardiol* 29(5): 2132-2144, 2022.
- 10) Tahara N, Honda A, Ueda M, Fukumoto Y. Popeye's sign and transthyretin amyloidosis. *Eur Heart J* 43(31): 3000, 2022.
- 11) Yamaji K, Tahara N, Honda A, Bekki M, Maeda-Ogata S, Yoshimura H, Sugiyama Y, Igata S, Fukumoto Y. Potential high-risk sign of cough-induced transient left bundle branch block in severe aortic valve stenosis. *Eur Heart J Case Rep* 6(5): yta194, 2022.
- 12) Maruhashi T, Higashi Y, Yoshida H, Tanaka A, Eguchi K, Tomiyama H, Kario K, Kato T, Oda N, Tahara N, Oguri M, Watada H, Node K. Long-Term Effect of Febuxostat on Endothelial Function in Patients With Asymptomatic Hyperuricemia: A Sub-Analysis of the PRIZE Study. *Front Cardiovasc Med* 9: 882821, 2022.
- 13) Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee HE, Russo E, Kubo T. ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 9(1): 251-262, 2022.
- 遠藤 仁
- 1) Kitakata H, Moriyama H, Endo J, Ikura H, Fukuda K, Sano M. Treatment of transthyretin His88Arg amyloidosis with RNA interference therapy: A case report. *J Cardiol Cases* 25(6): 363-366, 2022.
- 2) Ikura H, Endo J, Kitakata H, Moriyama H, Sano M, Fukuda K. Molecular Mechanism of Pathogenesis and Treatment Strategies for AL Amyloidosis. *Int J Mol Sci* 23(11): 6336, 2022.
- 3) Moriyama H, Endo J, Kataoka M, Shimanaka Y, Kono N, Sugiura Y, Goto S, Kitakata H, Hiraide T, Yoshida N, Isobe S, Yamamoto T, Shirakawa K, Anzai A, Katsumata Y, Suematsu M, Kosaki K, Fukuda K, Arai H, Sano M. Omega-3 fatty acid epoxides produced by PAF-AH2 in mast cells regulate pulmonary vascular remodeling. *Nat Commun* 13(1): 3013, 2022.
- 4) Moriyama H, Endo J, Ikura H, Kitakata H, Momoi

- M, Shinya Y, Ko S, Ichihara G, Hiraide T, Shirakawa K, Anzai A, Katsumata Y, Sano M. Qualitative and Quantitative Effects of Fatty Acids Involved in Heart Diseases. *Metabolites* 12(3): 210, 2022.
- 5) Kitakata H, Endo J, Ikura H, Moriyama H, Shirakawa K, Katsumata Y, Sano M. Therapeutic Targets for DOX-Induced Cardiomyopathy: Role of Apoptosis vs. Ferroptosis. *Int J Mol Sci* 23(3): 1414, 2022.
- 6) Ikura H, Kitakata H, Endo J, Moriyama H, Sano M, Tsujikawa H, Sawano M, Masuda T, Ohki T, Ueda M, Kosaki K, Fukuda K. Three patients of transthyretin amyloidosis in a Japanese family with amyloidogenic transthyretin Thr49Ser (p.Thr69Ser) variant. *Eur J Med Genet* 65(3): 104451, 2022.
- 7) Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Ikura H, Sano M, Tasaki M, Sakai S, Ueda M, Fukuda K. Step-by-step typing for the accurate diagnosis of concurrent light chain and transthyretin cardiac amyloidosis. *ESC Heart Fail* 9(2): 1474-1477, 2022.
- 8) 遠藤 仁. 心アミロイドーシスの診断と治療. *循環器ジャーナル* 71(1): 82-86, 2022.
- 9) 遠藤 仁. 心不全の原因として注目される心アミロイドーシスの新しい診断法と治療法. *Medical Practice* 39(9): 1357-1359, 2022.
- 大橋健一**
- 1) Haruhara K, Suzuki T, Wakui H, Azushima K, Kurotaki D, Kawase W, Uneda K, Kobayashi R, Ohki K, Kinguchi S, Yamaji T, Kato I, Ohashi K, Yamashita A, Tamura T, Tsuboi N, Yokoo T, Tamura K. Deficiency of the kidney tubular angiotensin II type1 receptor-associated protein ATRAP exacerbates streptozotocin-induced diabetic glomerular injury via reducing protective macrophage polarization. *Kidney Int* 101(5): 912-928, 2022.
- 2) Kurihara S, Sawa N, Inui K, Ikuma D, Oba Y, Mizuno H, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Tomita S, Okubo T, Ubara Y. Onion Skin Lesion of the Renal Small Artery in a Patient With Polymyositis and Hemolytic Uremic Syndrome. *Kidney Med* 4(10): 100539, 2022.
- 3) Suzuki M, Sekiguchi Y, Sasaki M, Inaba S, Oyama S, Inoue Y, Warabi M, Ohashi K, Inoshita S. Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis after COVID-19 Vaccination with Pfizer-BioNTech. *Intern Med* 61(19): 2925-2929, 2022.
- 4) Sawamura M, Sawa N, Yamanouchi M, Ikuma D, Sekine A, Mizuno H, Kawada M, Hiramatsu R, Hayami N, Hasegawa E, Suwabe T, Hoshino J, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Ubara Y. Use of biologic agents and methotrexate improves renal manifestation and outcome in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective analysis. *Clin Exp Nephrol* 26(4): 341-349, 2022.
- 5) Iijima T, Sawa N, Nakayama Y, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Wake A, Kono K, Hoshino J, Ubara Y, Ohashi K. Vincristine, Doxorubicin, and Dexamethasone Induction before Autologous Stem Cell Transplantation in Patients with AL Amyloidosis: A Retrospective Comparison with Frontline Stem Cell Transplantation. *Intern Med* 61(19): 2853-2860, 2022.
- 6) Nakashima S, Sekine A, Sawa N, Kawamura Y, Kono K, Kinowaki K, Kawada M, Hasegawa E, Akuta N, Suzuki Y, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y, Hoshino J. Thrombotic Microangiopathy, Podocytopathy, and Damage to the Renal Tubules with Severe Proteinuria and Acute Renal Dysfunction Induced by Lenvatinib. *Intern Med* 61(20): 3083-3088, 2022.
- 7) Yoshimura Y, Sawa N, Matsuoka S, Ikuma D, Oba Y, Sekine A, Hasegawa E, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Hoshino J, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Toda S, Matoba S, Wakui H, Ubara Y. Glomerular Microangiopathy with Cellular Crescent-like Formation and Endotheliopathy Due to Ramucirumab Treatment for Metastatic Sigmoid Colon Cancer. *Intern Med* 61(23): 3547-3552, 2022.
- 安倍正博**
- 1) Hosoi T, Yakabe M, Sasakawa H, Sasako T, Ueki K, Kato S, Tokuoka SM, Oda Y, Abe M, Matsumoto T, Akishita M, Ogawa S. Sarcopenia phenotype and impaired muscle function in male mice with

fast-twitch muscle-specific knockout of the androgen receptor. *Proc Natl Acad Sci U S A* 120(4): e2218032120, 2023.

2) Higa Y, Hiasa M, Tenshin H, Nakaue E, Tanaka M, Kim S, Nakagawa M, Shimizu S, Tanimoto K, Teramachi J, Harada T, Oda A, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Yamagami H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. The xanthine oxidase inhibitor febuxostat suppresses adipogenesis and activates Nrf2. *Antioxidants* 12(1): 133, 2023.

3) Dong B, Hiasa M, Higa Y, Ohnishi Y, Endo I, Kondo T, Takashi Y, Tsoumpra M, Kainuma R, Sawatsubashi S, Kiyonari H, Shioi G, Sakaue H, Nakashima T, Kato S, Abe M, Fukumoto S, Matsumoto T. Osteoblast/osteocyte-derived interleukin-11 regulates osteogenesis and systemic adipogenesis. *Nat Commun* 13(1): 7194, 2022.

4) Tanimoto K, Hiasa M, Tenshin H, Teramachi J, Oda A, Harada T, Higa Y, Sogabe K, Oura M, Sumitani R, Hara T, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. Mechanical unloading aggravates bone destruction and tumor expansion in myeloma. *Haematologica* 107(3): 744-749, 2022.

5) Takei M, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S, Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y. A Genome-Wide Association Study Predicts the Onset of Dysgeusia Due to Anti-cancer Drug Treatment. *Biol Pharm Bull* 45(1): 114-117, 2022.

6) Tenshin H, Teramachi J, Ashtar M, Hiasa M, Inoue Y, Oda A, Tanimoto K, Shimizu S, Higa Y, Harada T, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Sebe M, Tsutsumi R, Sakaue H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M. TGF-beta-activated kinase-1 inhibitor LL-Z1640-2 reduces joint inflammation and bone destruction in mouse models of rheumatoid arthritis by inhibiting NLRP3 inflammasome, TACE, TNF-a and RANKL expression. *Clin Transl Immunology* 11(1): e1371, 2022.

7) Shimizu S, Teramachi J, Harada T, Hiasa M, Tenshin H, Oda A, Seki A, Inoue Y, Tanimoto K, Higa Y, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Yamagami H, Sawa Y, Endo I, Tsuneyama K, Matsumoto T, Tanaka E and Abe M.

Aberrant upregulation of the endogenous PP2A inhibitor CIP2A is vital for myeloma cell growth and survival. *International Journal of Myeloma* 12(2): 14-23, 2022.

8) Miki H, Nakamura S, Oura M, Nakamura M, Sumitani R, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Hamano H, Kondo M, Okada N, Endo I, Abe M. The importance of retaining physical functions to prevent skeletal-related events in multiple myeloma patients with bone disease. *eJHaem* 3: 480-483, 2022.

鈴木憲史

1) Suzuki K, Matsumoto M, Hiramatsu Y, Takezako N, Tamai Y, Suzuki K. Once monthly elotuzumab, lenalidomide plus dexamethasone for multiple myeloma; a multicenter observation study. *Acta Haematol* 146(2): 125-136, 2022.

2) Martin TG, Capra M, Mohty M, Suzuki K, Quach H, Cavo M, Moreau P, Dimopoulos M, Yong K, Tekle C, Foster MC, Barnes Y, Risse ML, Mikhael J. Isatuximab Plus Carfilzomib and Dexamethasone Versus Carfilzomib and Dexamethasone in Patients with Relapsed Multiple Myeloma: IKEMA Subgroup Analysis by Prior Transplantation. *Transplant Cell Ther* 29(2): 134.e1-134.e7, 2022.

3) Ishida T, Ito S, Tanaka J, Uchiyama M, Kawano Y, Moreau P, Martin T, Risse ML, Tada K, Suzuki K, Ishizawa K. Isatuximab plus carfilzomib and dexamethasone in Japanese patients with relapsed multiple myeloma: subgroup analysis of the randomized, open label, phase 3 IKEMA study. *Jpn J Clin Oncol* 52(12): 1446-1449, 2022.

4) Ri M, Suzuki K, Ishida T, Kuroda J, Tsukamoto T, Teshima T, Goto H, Jackson CC, Sun H, Pacaud L, Fujikawa E, Yeh TM, Hatayama T, Aida K, Sunagawa Y, Iida S. Ciltacabtagene autoleucel in patients with relapsed/refractory multiple myeloma: CARTITUDE-1 (phase 2) Japanese cohort. *Cancer Sci* 113(12): 4267-4276, 2022.

5) Dimopoulos MA, Dytfeld D, Grosicki S, Moreau P, Takezako N, Hori M, Leleu X, LeBlanc R, Suzuki K, Raab MS, Richardson PG, Popa McKiver M, Jou YM,

- Yao D, Das P, San-Miguel J. Elotuzumab Plus Pomalidomide and Dexamethasone for Relapsed/Refractory Multiple Myeloma: Final Overall Survival Analysis From the Randomized Phase II ELOQUENT-3 Trial. *J Clin Oncol* 41(3): 568-578, 2022.
- 6) Martin T, Richardson PG, Facon T, Moreau P, Perrot A, Spicka I, Bisht K, Inchauspé M, Casca F, Macé S, Van de Velde H, Suzuki K. Primary outcomes by 1q21+ status for isatuximab-treated patients with relapsed/refractory multiple myeloma: subgroup analyses from ICARIA-MM and IKEMA. *Haematologica* 107(10): 2485-2491, 2022.
- 7) Sunami K, Ikeda T, Huang SY, Wang MC, Koh Y, Min CK, Yeh SP, Matsumoto M, Uchiyama M, Iyama S, Shimazaki C, Lee JH, Kim K, Kaneko H, Kim JS, Lin TL, Campana F, Tada K, Iida S, Suzuki K. Isatuximab-Pomalidomide-Dexamethasone Versus Pomalidomide-Dexamethasone in East Asian Patients With Relapsed/Refractory Multiple Myeloma: ICARIA-MM Subgroup Analysis. ICARIA-MM study group. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 22(8): e751-e761, 2022.
- 8) Martin T, Mikhael J, Hajek R, Kim K, Suzuki K, Hulin C, Garg M, Quach H, Sia H, George A, Konstantinova T, Risse ML, Asset G, Macé S, van de Velde H, Moreau P. Depth of response and response kinetics of isatuximab plus carfilzomib and dexamethasone in relapsed multiple myeloma. *Blood Adv* 6(15): 4506-4515, 2022.
- 9) Kim K, Min CK, Koh Y, Ishizawa K, Kim SH, Ito S, Tanaka J, Uchiyama M, Kawano Y, Kim JS, Moreau P, Martin T, Dong Y, Risse ML, Suzuki K. Isatuximab plus carfilzomib and dexamethasone in East Asian patients with relapsed multiple myeloma: IKEMA subgroup analysis. *Int J Hematol* 116(4): 553-562, 2022.
- 10) Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Suzuki K, Handa H, Shibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K. Two-year outcomes of tirabrutinib monotherapy in Waldenström's macroglobulinemia. *Cancer Sci* 113(6): 2085-2096, 2022.
- 11) Sanchorawala V, Palladini G, Minnema MC, Jaccard A, Lee HC, Gibbs S, Mollee P, Venner C, Lu J, Schönland S, Gatt M, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Chauveau D, Gries KS, Fastenau J, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Weiss BM, Vermeulen J, Ho KF, Merlini G, Comenzo RL, Kastritis E, Wechalekar AD. Health-related quality of life in patients with light chain amyloidosis treated with bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone ± daratumumab: Results from the ANDROMEDA study. *Am J Hematol* 97(6): 719-730, 2022.
- 12) Dispenzieri A, Kastritis E, Wechalekar AD, Schönland SO, Kim K, Sanchorawala V, Landau HJ, Kwok F, Suzuki K, Comenzo RL, Berg D, Liu G, Kumar A, Faller DV, Merlini G. A randomized phase 3 study of ixazomib-dexamethasone versus physician's choice in relapsed or refractory AL amyloidosis. *Leukemia* 36(1): 225-235, 2022.
- 13) Ozaki S, Handa H, Koiso H, Saitoh T, Sunami K, Ishida T, Suzuki K, Narita T, Iida S, Nakamura Y, Suzuki K, Nishimura N, Murakami H, Shimizu K. Propensity-score matched analysis of the efficacy of maintenance/continuous therapy in newly diagnosed patients with multiple myeloma: a multicenter retrospective collaborative study of the Japanese Society of Myeloma. *J Cancer Res Clin Oncol* 148(1): 191-203, 2022.
- 河野 和
- 1) Kawano Y, Hata H, Takashio S, Tsujita K, Ueda M, Matsuoka M. Daratumumab, lenalidomide and dexamethasone in newly diagnosed systemic light chain amyloidosis patients associated with multiple myeloma. *Br J Haematol* 198(3): e38-e41, 2022.
- 2) Tokai T, Takashio S, Kawano Y, Kidoh M, Oda S, Matsuoka M, Tsujita K. Assessing the treatment effect of daratumumab by serial measurements of cardiac biomarkers and imaging parameters in light-chain cardiac amyloidosis. *J Cardiol Cases* 26(4): 301-304, 2022.
- 3) Kidoh M, Oda S, Takashio S, Hirakawa K, Kawano

Y, Shiraishi S, Hayashi H, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T. CT extracellular volume fraction versus myocardium-to-lumen signal ratio for cardiac amyloidosis. *Radiology* 306(3): e220542, 2023.

山本 卓

- 1) Kitabayashi K, Yamamoto S, Narita I. Association of the nutritional risk index for Japanese hemodialysis with mortality and dietary nutritional intake in patients undergoing hemodialysis during long-term hospitalization. *Clin Exp Nephrol* 26(12): 1200-1207, 2022.
- 2) Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Narita I. Dysfunction in dynamic, but not static balance is associated with risk of accidental falls in hemodialysis patients: a prospective cohort study. *BMC Nephrol* 23(1): 237, 2022.
- 3) Kitabayashi K, Yamamoto S, Narita I. Magnesium intake by enteral formulation affects serum magnesium concentration in patients undergoing hemodialysis. *Ther Apher Dial* 26(4): 749-755, 2022.
- 4) Yamamoto S, Bieber BA, Komaba H, Hanafusa N, Kitabayashi H, Nomura T, Cases A, Combe C, Pisoni RL, Robinson BM, Fukagawa M. Medical Director Practice of Advising Increased Dietary Protein Intake in Hemodialysis Patients With Hyperphosphatemia: Associations With Mortality in the Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study. *J Ren Nutr* 32(2): 243-250, 2022.
- 5) 羽深 将人, 山本 卓, 内木 宏延, 山本 格, 成田 一衛. プロテオーム解析. *日本腎臓学会誌* 64(8): 863-867, 2022.
- 6) 山本 卓. 慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常 (血管石灰化、アミロイド骨関節症を含む). *今日の治療指針* 64: 640-643, 2022.
- 7) 山本 卓, 成田一衛. 高齢腎不全患者の特徴、臨床像. *腎臓内科* 15(4): 393-396, 2022.
- 11) 山本 卓. 慢性腎臓病と透析. *内科* 1129(6): 1311-1315, 2022.
- 8) 山本 卓. 尿毒症症候群. *別冊日本臨牀領域別症候群シリーズ 25 腎臓症候群*. 日本臨牀社, 東京, 32-36, 2022.

9) 山本 卓. CKD・透析患者の骨折とその対策. *日本透析医会雑誌* 37(1): 25-28, 2022.

10) 山本 卓, 成田 一衛. 高齢腎不全患者の特徴、臨床像. *高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法*: 83-87, 2022.

11) 山本 卓, 伊藤 由美. アミロイド腎症. *腎疾患・透析最新の治療2023-2025*. 山縣 邦弘, 南学 正臣 (編), 南江堂, 141-143, 2022.

坂井健二

- 1) Hikishima S, Sakai K, Akagi A, Yamaguchi H, Shibata S, Hayashi K, Nakano H, Kanemoto M, Usui Y, Taniguchi Y, Komatsu J, Nakamura-Shindo K, Nozaki I, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Yamada M. Deterioration after liver transplantation and transthyretin stabilizer administration in a patient with ATTRv amyloidosis with Leu58Arg (p.Leu78Arg) TTR variant. *Intern Med* 61: 2347-2351, 2022.
- 2) Yamaguchi H, Kawahara H, Kodera N, Kumaki A, Tada Y, Sakai K, Ono K, Yamada M, Hanayama R. Extracellular vesicles contribute to the metabolism of transthyretin amyloid in hereditary transthyretin amyloidosis. *Front Mol Biosci* 9: 839917, 2022.
- 3) Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, Iwasa K, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K. Effects of *Melissa officinalis* extract containing rosmarinic acid on cognition in older adults without dementia: a randomized controlled trial. *J Alzheimers Dis* 91: 805-814, 2023.
- 4) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K. Cerebrospinal fluid biomarkers and amyloid β elimination from the brain in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation. *J Alzheimers Dis* 91: 1173-1183, 2023.
- 5) Shima A, Sakai K, Yamashita F, Hamaguchi T, Kitamoto T, Sasaki M, Yamada M, Ono K. Vacuoles related to tissue neuron-astrocyte ratio and infiltration of macrophages/monocytes contribute to hyperintense brain signals on diffusion-weighted magnetic resonance imaging in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease. *J Neurol Sci* 447: 120612, 2023.
- 6) 坂井 健二. 脳アミロイドアンギオパチー: 最

近のトピックス. 老年期認知症会誌 23: 81-87, 2022

7) 坂井 健二. 認知症の病理学. 脳神経内科 98: 155-163, 2023.

8) 坂井 健二, 山田 正仁. 免疫グロブリン性アミロイドーシスによるニューロパチー. 神田 隆編, 末梢神経障害-解剖生理から診断, 治療, リハビリテーションまで. 医学書院, 東京, 289-293, 2022.

2. 学会発表

内木宏延

1) Naiki H. The real-world data of systemic amyloidosis in Japan: Evidence obtained by the nation-wide consultation for the typing diagnosis of amyloidosis. 第6回京都生体質量分析研究会国際シンポジウム・国際質量分析イメージングシンポジウム 2023 京都, 京都, 1,30-31, 2023.

2) 池田 善彦, 岡田 厚, 雨宮 妃, 松本 学, 大郷 恵子, 内木 宏延, 畠山 金太. 心アミロイドーシス診断のピットフォール. 第111回日本病理学会総会(心筋生検 Up to Date), 神戸市, 4,14-16, 2022.

3) 川口 樹里, 有馬 直輝, 越智 友梨, 馬場 裕一, 久保 亨, 山崎 直仁, 内木 宏延, 北岡 裕章. 左室肥大を認めない心アミロイドーシスの一例. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸市, 10,16, 2022.

4) 内木 宏延. ヒトアミロイドーシス発症の分子機構. 第101回福井県医学会総会, 福井市, 6,19, 2022.

安東由喜雄

1) 安東由喜雄. 21世紀の疾患: トランスサイレチンアミロイドーシスの診断・治療の最新の知見. 第145回県北神経懇談会, 佐世保, 1,24, 2023.

2) 安東由喜雄. 21世紀の病気: 検査医学のアミロイドーシスの診断・病態解析・治療への貢献. 第69回日本臨床検査医学会学術集会, 栃木, 11,17-20, 2022.

3) 安東由喜雄. ATTRvアミロイドーシス診断と治療の最前線. Alnylam ATTR アミロイドーシス Web セミナー関西, 大阪, 11,7, 2022.

4) 安東由喜雄, FAP といわれた時代から ATTRv

にいたる研究・診療の変遷. AMED 講演会, web, 9,23, 2022.

5) Ando Y. Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis. Webinar of International Amyloidosis Society, Heidelberg, Germany, web, 9,4-8, 2022.

関島良樹

1) 関島 良樹. アルツハイマー病以外の疾患に対する PiB-PET の有用性. 第14回関東脳核医学研究会-KBNM -, Web, 3,12, 2022.

2) 関島 良樹. 早期治療介入を見据えた病態理解と診断のポイント. 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,18, 2022.

3) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシスの最新の治療戦略. 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,19, 2022.

4) 関島 良樹. ATTR アミロイドーシスの病理・病態に迫る—QOL・生命予後改善を目指して—. 第63回日本神経病理学会総会学術研究会, 京都, 6,26, 2022.

5) 関島 良樹. これからの ATTRv アミロイドーシス診療を考える. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸市, 10,16, 2022.

6) 関島 良樹. アミロイドーシスの最新医療. 第75回日本自律神経学会総会, さいたま市, 10,27, 2022.

7) 関島 良樹. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス治療の最前線. 第40回日本神経治療学会学術集会, 郡山市, 11,4, 2022.

8) Katoh N, Oguchi K, Mochizuki Y, Takahashi Y, Ueno A, Takasone K, Sekijima Y. Reduction of cardiac AL amyloid deposition after complete response visualized by PiB-PET imaging. XVIII International Symposium On Amyloidosis, Heidelberg, Germany, 9,4-8, 2022.

9) Katoh N, Yoshinaga T, Yazaki M, Kusaba T, Yamano T, Miyagawa-Hayashino A, Sekijima Y. Siblings with a novel type of amyloid neuropathy, hereditary A β 2M amyloid neuropathy: Report of the second family in the world. XVIII International Symposium On Amyloidosis, Heidelberg, Germany, 9,4-8, 2022.

10) Takahashi Y, Oguchi K, Mochizuki Y, Takasone K, Ezawa N, Matsushima A, Katoh N, Yazaki M, Sekijima Y. Progression and distribution pattern of cerebral amyloid angiopathy in hereditary ATTR amyloidosis patients visualized by 11C-PiB-PET imaging. XVIII International Symposium On Amyloidosis, Heidelberg, Germany, 9,4-8, 2022.

11) 高曾根 健, 望月 祐介, 高橋 佑介, 中尾 聡, 上野 晃弘, 吉長 恒明, 加藤 修, 矢崎 正英, 亀谷 富由樹, 関島 良樹. 手根管および末梢神経検体におけるアミロイドーシス病型診断. 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,18-21, 2022.

12) 加藤 修明, 吉長 恒明, 矢崎 正英, 草場 哲郎, 山野 哲弘, 宮川 文, 関島 良樹. 新たなる遺伝性アミロイドニューロパチー病型: A β 2M アミロイドーシス兄弟例. 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,18-21, 2022.

10) 星野 優美, 小平 農, 大橋 信彦, 森田 洋, 関島 良樹. 低域遮断フィルター設定が FAP 患者の下肢遠位部複合筋活動電位の持続時間に与える影響. 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,18-21, 2022.

11) Sekijima Y, Adams D, Tournev IL, Taylor MS, Coelho T, Plante-bordeneuve V, Berk JL, Gonzalez-duarte A, Gillmore JD, Low SC, Obici L, Chen C, Badri P, Arum SM, Vest J, Polydefkis M. HELIOS-A: Study of Vutrisiran in Patients with Hereditary transthyretin-mediated(hATTR) Amyloidosis. 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,18-21, 2022.

12) 中村 勝哉, 石川 真澄, 黄瀬 恵美子, 小島 朋美, 佐久 彰子, 古庄 知己, 関島 良樹. 遺伝性神経疾患における発症前診断～トランスサイレチン型遺伝性アミロイドーシスを中心に～. 第46回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 東京, 7,1-3, 2022.

13) 加藤 修明, 吉長 恒, 矢崎 正英, 草場 哲郎, 山野 哲弘, 宮川 文, 関島 良樹. 遺伝性アミロイドニューロパチーの新病型「遺伝性 A β 2M アミロイドニューロパチー」の兄弟例: 世界2家系目の報告. 第33回日本末梢神経学会学術集会, 東京, 9,9-10, 2022.

14) 望月 祐介, 加藤 修, 矢崎 正英, 中川 沙織,

関島 良樹. 遺伝性 ATTR (ATTRv) アミロイドーシス患者の難治性下痢に対するコレステミドの有効性・安全性の評価. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸市, 10,16, 2022.

15) 高橋 佑介, 小口 和浩, 望月 祐介, 高曾根 健, 江澤 直樹, 松嶋 聡, 加藤 修明, 矢崎 正英, 関島 良樹. ATTR 型脳アミロイドアンギオパチーの臨床的特徴およびアミロイド沈着の分布と進展. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸市, 10,16, 2022.

16) 高橋 佑介, 小口 和浩, 望月 祐介, 高曾根 健, 江澤 直樹, 松嶋 聡, 加藤 修明, 矢崎 正英, 関島 良樹. ATTR 型脳アミロイドアンギオパチーの臨床的特徴およびアミロイド沈着の分布と進展. 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会合同開催, 東京, 11,25-27, 2022.

植田光晴

1) Ueda M, Tasaki M, Nomura T, Yamakawa S, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Ando Y. Diagnostic and therapeutic center for amyloidosis at Kumamoto University. XVIII International Symposium on Amyloidosis. Heidelberg, Germany, 9,4-8, 2022.

2) 植田 光晴. 遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシス治療の最前線. シンポジウム「代謝性・遺伝性末梢神経障害治療の最前線」, 第63回日本神経学会学術大会, 東京, 5,18-21, 2022.

島崎千尋

1) Suzuki K, Kastritis E, Kim K, Merlini G, Palladini G, Wechalekar AD, Jaccard A, Dispenzieri A, Santhorawala V, Gibbs SD, Mollee P, Venner CP, Schönland S, Lu J, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Comenzo RL. Daratumumab + Bortezomib/ Cyclophosphamide/Dexamethasone in AL Amyloidosis: ANDROMEDA Update. 第84回日本血液学会学術集会, 福岡市, 10,14-16, 2022.

2) 淵田 真一, 江頭 文, 井出 大輔, 太田 沙絵子, 初瀬 真弓, 角 陽子, 島崎 千尋. 11例の AL アミロイドーシスに対する D-CyBorD 療法の効果: 単

施設の後方的解析. 第47回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜市, 5,20-22, 2022.

3) 淵田 真一, 太田 (桑原) 沙絵子, 木元 (松村) 弥生, 初瀬 真弓, 島崎 千尋. 14例のALアミロイドーシスに対するD-CyBorD療法の効果: 単施設の後方視的解析. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸市, 10,16, 2022.

飯田真介

1) Suzuki K, Kastritis E, Kim K, Merlini G, Palladini G, Wechalekar D, Jaccard A, Dispenzieri A, Sanchowala V, Gibbs SD, Mollee P, Venner CP, Schonland S, Lu J, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min C-K, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin H-J, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Comenzo R. Daratumumab+bortezomib/cyclophosphamide/dexamethasone in AL amyloidosis: Andromeda update. 第84回日本血液学会学術総会, 福岡, 10,16, 2022.

2) 金森 勇樹, 丸茂 義晃, 西垂水 希美, 木下 史緒理, 鈴木 智貴, 成田 朋子, 李 政樹, 楠本 茂, 小松 弘和, 飯田 真介. 免疫染色で確定診断に至らず質量分析で診断し得た心アミロイドーシスの一例. 第249回日本内科学会東海地方会, 名古屋市, 2,19, 2023.

小池春樹

1) 小池 春樹. 眼で見て理解する末梢神経疾患の病態と治療戦略. 第8回日本筋学会, 東京, 8,5-6, 2022.

2) 小池 春樹. 目で見て理解する、しびれの病態と治療戦略. 日本内科学会第248回東海地方会 第84回東海支部生涯教育講演会, 浜松, 10,9, 2022.

3) 小池 春樹. 現代の視点から見た末梢神経病理学. 第33回日本末梢神経学会学術集会, 東京, 9,9-10, 2022.

星野純一

1) 星野 純一. 透析アミロイド症の疫学と診断. 第67回日本透析医学会学術集会シンポジウム, 横浜市, 7,2, 2022.

山田俊幸

1) 川口 公平, 佐藤 純司, 山田 俊幸. AAアミロイドーシスにおける沈着AA蛋白の翻訳後修飾分析. 第62回日本臨床化学学会年次学術集会, 富山市, 10,1, 2022.

2) 川口 公平, 佐藤 純司, 奥田 恭章, 黒田 毅, 山田 俊幸. 組織沈着AA蛋白のプロテオーム解析. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会. 神戸市, 10,16, 2022.

3) 岩津 好隆, 向井 秀幸, 三浦 裕, 小谷 和彦, 山田 俊幸, 小藤田 篤, 黒尾 誠. 維持血液透析症例におけるCalci-protein particleとサイトカイン/ケモカインの関係. 第69回日本臨床検査医学会学術集会, 宇都宮市, 11,18, 2022.

4) 山本 さやか, 桶作 崇智, 皆方 大佑, 鯉渕 晴美, 山田 俊幸. 多発性骨髄腫に対する自家移植後のサイトメガロウイルス感染を契機に出現したオリゴクローナルバンドの一例. 第69回日本臨床検査医学会学術集会, 宇都宮市, 11,19, 2022.

小野賢二郎

1) Ono K. HMW A β oligomers are important targets for disease modifying approach of Alzheimer's disease. Amyloid symposium ZOOMinar on "Molecular Bases of Proteinopathies", WEB, 2,28, 2022.

2) 小野 賢二郎. 認知症診療の新時代～アミロイドイメージングから抗体治療まで～. 日本神経学会 学生・研修医向けウェブセミナー, WEB, 2,11, 2022.

3) 小野 賢二郎. アルツハイマー病の抗体療法とは? 第63回日本神経学会学術大会, 東京 (ハイブリッド), 5,18-21, 2022.

4) 坂井 健二, 山田 正仁, 小野 賢二郎. アルツハイマー病における疾患修飾療法と脳アミロイドアンギオパチー. 第63回日本神経学会学術大会, 東京 (ハイブリッド), 5,18-21, 2022.

5) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 田中 英智, 池田 篤平, 濱口 毅, 柿田 明美, 山田 正仁, 小野 賢二郎. Elimination of vascula A β in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation/vasculitis. 第63回日本神経学会学術大会, 東京 (ハイブリッド), 5,18-21, 2022.

6) 疋島 貞雄, 坂井 健二, 山口 浩輝, 柴田 修太郎, 林 幸司, 中野 博人, 兼元 みずき, 碓井 雄大,

谷口 優, 小松 潤史, 中村-進藤 桂子, 野崎 一朗, 浜口 毅, 岩佐 和夫, 山田 正仁, 小野 賢二郎.

Deterioration after disease modifying treatments in a patient with ATTRv amyloidosis (Leu58Arg). 第63回日本神経学会学術大会, 東京 (ハイブリッド), 5,18-21, 2022.

7) 小野 賢二郎. 認知症の診断と治療 -アルツハイマー型認知症の治療戦略を中心に-. 日本内科学会北陸支部第86回生涯教育講演会, 金沢 (ハイブリッド), 6,19, 2022.

8) 柴田 修太郎, 野崎 一朗, 小野 賢二郎. Logopenic型進行性失語を呈した Alzheimer病の1例. 第163回日本神経学会東海北陸地方会, WEB, 7,9, 2022.

9) 小野 賢二郎. アルツハイマー病の抗体療法の現在. 第12回日本脳血管・認知症学会総会 VAS-COG Japan 2022, 東京, 8,6, 2022.

10) 小野 賢二郎. シンポジウム2「疾患修飾療法を見据えた脳アミロイドーシスの病態を考える」アルツハイマー病の抗体療法の現状と展望. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸, 10,16, 2022.

11) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 田中 英智, 池田 篤平, 濱口 毅, 柿田 明美, 山田 正仁, 小野 賢二郎. 脳アミロイドアンジオパチー関連炎症における脳脊髄液バイオマーカーと血管病理の解析. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸, 10,16, 2022.

12) 疋島 貞雄, 坂井 健二, 赤木 明生, 山口 浩輝, 柴田 修太郎, 林 幸司, 中野 博人, 兼元 みずき, 碓井 雄大, 谷口 優, 小松 潤史, 進藤 桂子, 野崎 一朗, 濱口 毅, 岩佐 和夫, 山田 正仁, 小野 賢二郎. Leu58Arg(p.Leu78Arg)変異を有する ATTRv アミロイドーシス症例の疾患修飾治療と長期経過についての検討. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸, 10,16, 2022.

13) 小野 賢二郎. アルツハイマー病に対する疾患修飾療法の現状と展望. 第40回日本神経治療学会学術集会, 郡山, 11,2-4, 2022.

14) 小野 賢二郎. 認知症の診断と治療-アルツハイマー型認知症を中心に-. 第40回日本神経治療学会学術集会, 郡山, 11,2-4, 2022.

北岡裕章

1) 山崎 直仁, 越智 友梨, 久保 亨, 北岡 裕章. 心アミロイドーシスにおける III 音, IV 音聴取の臨床的意義. 第70回日本心臓病学会学術集会 (Physical Examination を学ぶ 第3部「Physical からの発見」), 9,23-25, 京都, 2022, 抄録集, PE3-3, 2022.

2) 久保 亨, 越智 友梨, 馬場 裕一, 山崎 直仁, 北岡 裕章. ATTRwtと他の2次性心筋症の鑑別. 日本超音波医学会第95回学術集会 (心筋症/ATTRwt アミロイドーシス), 名古屋, 5,20-22, 2022, 超音波医学 49(Suppl), 2022.

3) 川口 樹里, 有馬 直輝, 越智 友梨, 馬場 裕一, 久保 亨, 山崎 直仁, 内木 宏延, 北岡 裕章. 左室肥大を認めない心アミロイドーシスの一例. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸市, 10,16, 2022.

田原宣広

1) 中島 菜穂子, 田原 宣広, 福本 義弘. 肺高血圧症患者の下肢症状に対する弾性ストッキングの効果の検討. 第86回日本循環器病学会学術集会, WEB, 3,22-13, 2022.

2) 田原 宣広. ATTRv アミロイドーシスにおける治療の考え方と siRNA 治療への期待. 第8回日本心筋症研究会, 高知, 5,14, 2022.

3) 田原 宣広, 緒方 紹子, 戸次 宗久, 田原 敦子, 吉村 英恵, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘. ピロリン酸シンチを考慮すべきクリニカルシナリオにおける心エコーの役割. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, 5,20-22, 2022.

4) 田原 宣広. 肺動脈性肺高血圧症をどう診断し、どう治療していくか? 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 那覇, 6,11-12, 2022.

5) 中島 菜穂子, 鐘江 あかね, 後藤 千津, 田中 節子, 田原 宣広, 福本 義弘. 肺高血圧症患者が認める下肢症状に対する弾性ストッキングの効果. 第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 東京, 7,2-3, 2022.

6) 田原 宣広, 杵山 陽一, 吉村 英恵, 緒方 紹子, 田原 敦子, 戸次 宗久, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘. 重症例であっても非経口プロスタサイクリン製剤治療を選択せず、早期から経口薬を駆

使して治療するのはどのような症例か？ 第7回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会，東京，7,2-3, 2022.

7) 田原 宣広，戸次 宗久，田原 敦子，本多 亮博，緒方 詔子，杵山 陽一，井形 幸代，福本 義弘. 血管リスクを可視化する第54回日本動脈硬化学会総会・学術集会，久留米，7,23-24, 2022.

8) 田原 宣広，緒方 詔子，戸次 宗久，田原 敦子，吉村 英恵，本多 亮博，井形 幸代，福本 義弘. ^{99m}Tc シンチグラフィーによるATTR心アミロイドーシス診断の革新. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会，神戸，10,16, 2022.

9) 田原 宣広. 循環器内科が診るPoPH診療の実際. 第30回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2022 Fukuoka, 福岡，10,27-29, 2022.

10) 田原 宣広，緒方 詔子，戸次 宗久，田原 敦子，吉村 英恵，本多 亮博，井形 幸代，福本 義弘. 循環器内科医が診る遺伝性ATTRアミロイドーシス～最新の診断と治療. 第133回日本循環器学会九州地方会，久留米，12,3, 2022.

遠藤 仁

1) 遠藤 仁. 反転攻勢のALアミロイドーシス診療—循環器内科の役割と他科連携の意義— 第44回心筋生検研究会. 11,11, 2022.

2) 遠藤 仁. 心不全の心臓病理 HFpEFの病理：HFpEFに潜む心アミロイドーシス. 第26回日本心不全学会 心筋生検研究会企画セッション，奈良，10,23, 2022.

3) 遠藤 仁. 心アミロイドーシス診療の本邦の現状. 第26回日本心不全学会，奈良，10,22, 2022.

4) 遠藤 仁. ATTR心アミロイドーシス診療の将来展望. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会シンポジウム，神戸，10,17, 2022.

5) 遠藤 仁. 革新するALアミロイドーシス診療—血液内科・循環器内科連携の重要性—. 第84回日本血液学会学術集会，博多，10,15, 2022.

6) 遠藤 仁. ALアミロイドーシス診療における多科連携の重要性. 第70回日本心臓病学会，京都，9,24, 2022.

7) 遠藤 仁. 心アミロイドーシス診療の現在とこれから. 第70回日本心臓病学会，京都，9,25, 2022.

8) 遠藤 仁. 反転攻勢のALアミロイドーシス診療—循環器内科の役割と他科連携の意義—. 第65回日本腎臓学会学術総会，神戸，6,10, 2022.

9) 遠藤 仁. 循環器内科の立場で考えるATTRアミロイドーシス診療. 第63回日本神経学会学術大会，東京，5,19, 2022.

10) 遠藤 仁. 革新するALアミロイドーシス診療—血液内科・循環器内科連携の重要性—. 第47回日本骨髄腫学会学術集会，岐阜，5,20, 2022.

畠山金太

1) 池田 善彦，岡田 厚，雨宮 妃，松本 学，大郷 恵子，内木 宏延，畠山 金太. 心アミロイドーシス診断のピットフォール. 第111回日本病理学会総会(心筋生検 Up to Date)，神戸市，4,14-16, 2022.

安倍正博

1) 大浦 雅博，中村 信元，林 成樹，住谷 龍平，曾我部 公子，丸橋 朋子，高橋 真美子，原田 武志，藤井 志朗，三木 浩和，安倍 正博. COVID-19流行下の造血器腫瘍診療におけるACPの実践. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会，福岡，3,16-18, 2023.

2) 住谷 龍平，中村 信元，林 成樹，大浦 雅博，曾我部 公子，高橋 真美子，原田 武志，藤井 志朗，三木 浩和，東 航平，安倍 正博. Lipiodol®でのリンパ管造影により難治性乳糜腹水が軽快した濾胞性リンパ腫. 第62回日本血液学会中国四国地方会，松山市，3,4, 2023.

3) 新居 寛子，三木 浩和，高橋 真美子，住谷 龍平，大浦 雅博，曾我部 公子，丸橋 朋子，原田 武志，藤井 志朗，中村 信元，岩佐 武，西小森 隆太，安倍 正博. 周期性の発熱，胸背部痛をきたした家族性地中海熱の女性例-AYA世代患者における多職種連携の重要性-. 第266回徳島医学会学術集会，徳島，2,12, 2023.

4) 高橋 真美子，三木 浩和，丸橋 朋子，林 成樹，住谷 龍平，大浦 雅博，曾我部 公子，原田 武志，宮本 亮介，藤井 志朗，中村 信元，安倍 正博. チオテパ，フスルフアンを用いた自家末梢血幹細胞移植が奏効した神経リンパ腫症の1例. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会，名古屋，2,10-12, 2023.

- 5) 林 成樹, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 原田 武志, 中村 信元, 安倍 正博, 森 彩花, 田蒔 昌憲. ITP、自己免疫性出血病 FXIIIに続発し TAFRO 症候群を発症した一例. 第 127 回日本内科学会四国地方会, 松山, 12,18, 2022.
- 6) 新居 寛子, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 曾我部 公子, 林 成樹, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 原田 武志, 中村 信元, 安積 麻衣, 湊 将典, 三木 浩和, 安倍 正博. ループス腎炎に対してミコフェノール酸モフェチル投与中に発症した他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患の 1 例. 第 265 回徳島医学会学術集会, 徳島, 7,31, 2022.
- 7) 安倍 正博. 骨転移病態の基礎: オーバービュー. 第 40 回日本骨代謝学会学術集会 (がんの骨転移関連疾患とそのマネージメント), 岐阜, 7,22-23, 2022.
- 8) 原田 武志, 天真 寛文, 井上 雄介, 住谷 龍平, 中上 絵美子, 寺町 順平, 日浅 雅博, 田中 栄二, 松本 俊夫, 安倍 正博. 破骨細胞による SLAMF7 の産生と骨髄腫関連骨病変に対する SLAMF7 標的療法の開発. 第 40 回日本骨代謝学会学術集会, 岐阜, 7,22-23, 2022.
- 9) 比嘉 佳基, 日浅 雅博, 天真 寛文, 寺町 順平, 原田 武志, 小田 明日香, 遠藤 逸朗, 松本 俊夫, 田中 栄二, 安倍 正博. キサンチンオキシダーゼ (XO)阻害薬 febuxostat による脂肪細胞分化と骨芽細胞分化の制御機構. 第 40 回日本骨代謝学会学術集会, 岐阜, 7,22-23, 2022.
- 10) 中上 絵美子, 天真 寛文, 日浅 雅博, 寺町 順平, 原田 武志, 井上 雄介, 谷本 幸多朗, 清水 宗, 比嘉 佳基, 遠藤 逸朗, 田中 栄二, 松本 俊夫, 安倍 正博. プロテアソーム阻害薬による骨髄腫骨病変部選択的骨形成誘導活性の検討. 第 40 回日本骨代謝学会学術集会, 岐阜, 7,22-23, 2022.
- 11) 田中 菜里子, 日浅 雅博, 谷本 幸多朗, 天真 寛文, 清水 宗, 比嘉 佳基, 中上 絵美子, 金 秀河, 寺町 順平, 原田 武志, 中村 信元, 遠藤 逸朗, 田中 栄二, 松本 俊夫, 安倍 正博. 不動は骨髄腫骨病変部 DPP-4 発現増加と骨髄腫の腫瘍進展・腫外播種を加速させる. 第 40 回日本骨代謝学会学術集会, 岐阜, 7,22-23, 2022.
- 12) 住谷 龍平, 大浦 雅博, 藤井 志朗, 中村 信元, 三木 浩和, 水口 槇子, 賀川 久美子, 橋本 年弘, 原田 武志, 安倍 正博. 経時的に複数種の非ホジキンリンパ腫を発症した HTLV-1 キャリア. 第 126 回日本内科学会四国地方会, Web, 6,5, 2022.
- 13) 中村 昌史, 大浦 雅博, 金子 遥祐, 倉橋 清衛, 内藤 伸仁, 宮本 直輝, 奥村 和正, 原田 武志, 安倍 正博. 初回ペムプロリズマブ投与後に DIC を誘発する免疫関連有害事象をきたした乳癌例. 第 126 回日本内科学会四国地方会, Web, 6,5, 2022.
- 14) 本田 壮一, 中村 信元, 堀 太貴, 安倍 正博, 高橋 啓輝. 地域での造血腫瘍の診療を考える. 第 126 回日本内科学会四国地方会, Web, 6,5, 2022.
- 15) 安倍 正博. Perspective of international collaboration in the JSM. 第 47 回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.
- 16) 三木 浩和, 中村 信元, 中村 昌史, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 高橋 真美子, 丸橋 朋子, 原田 武志, 藤井 志朗, 西尾 進, 友成 哲, 安倍 正博. 肝臓アミロイドーシスに対する超音波エラストグラフィを用いた非侵襲的診断法の有用性. 第 47 回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.
- 17) 中村 信元, 堀 太貴, 中村 昌史, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 三木 浩和, 原田 武志, 安倍 正博. 形質細胞疾患における新型コロナワクチンの有効性. 第 47 回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.
- 18) 原田 武志, 住谷 龍平, 小田 明日香, 井上 雄介, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 中村 信元, 三木 浩和, 天真 寛文, 日浅 雅博, 寺町 順平, 安倍 正博. RNA 編集酵素 ADAR1 を標的にする 1q 増幅骨髄腫細胞に対する治療法の開発. 第 47 回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.
- 19) 丸橋 朋子, 三木 浩和, 曾我部 公子, 原田 武志, 小田 明日香, 中村 信元, 中村 昌史, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 安倍 正博. 骨髄腫細胞のプロテアソーム阻害薬への抵抗性の機序と温熱療法によるその克服の可能性. 第 47 回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.
- 20) 比嘉 佳基, 日浅 雅博, 天真 寛文, 谷本 幸多郎, 清水 宗, 寺町 順平, 原田 武志, 小田 明日香,

遠藤 逸朗, 松本 俊夫, 田中 英二, 安倍 正博. 髄腫骨髄微小環境の変容におけるキサンチンオキシダーゼ-ROS 経路の重要な役割. 第47回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.

21) 井上 雄介, 原田 武志, 天真 寛文, 小田 明日香, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 中村 信元, 三木 浩和, 日浅 雅博, 寺町 順平, 安倍 正博. 骨髄腫に対する抗体免疫療法への Th1 様 $\gamma\delta T$ 細胞の応用. 第47回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.

22) 中上 絵美子, 天真 寛文, 寺町 順平, 日浅 雅博, 原田 武志, 谷本 幸多郎, 清水 宗, 比嘉 佳基, 住谷 龍平, 丸橋 朋子, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 中村 信元, 三木 浩和, 遠藤 逸朗, 田中 栄二, 安倍 正博. プロテアソーム阻害薬のパルス投与の骨代謝への影響. 第47回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.

23) 寺町 順平, 天真 寛文, 日浅 雅博, 小田 明日香, 清水 宗, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 藤井 志朗, 中村 信元, 三木 浩和, 遠藤 逸朗, 原田 武志, 安倍 正博. TAK1 阻害は骨髄腫の細胞間相互作用による骨破壊と薬剤耐性を改善する. 第47回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.

24) 天真 寛文, 原田 武志, 井上 雄介, 菊池 次郎, 小田 明日香, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 中村 信元, 三木 浩和, 日浅 雅博, 寺町 順平, 鈴木 敦, 角川 学士, 峯畑 健一, 古川 雄祐, 安倍 正博. 破骨細胞は SLAMF7 を強発現し可溶性 SLAMF7 を産生する. 第47回日本骨髄腫学会学術集会, 岐阜, 5,20-22, 2022.

山本 卓

1) 山本 卓, 山本 恵子, 平尾 嘉利, 河内 美帆, 今井 直史, 後藤 眞, 山本 格, 下条 文武, 成田 一衛. β_2 -microglobulin アミロイドのプロテオミクスとヘキサデシル基固定セルロースビーズによる臨床的吸着効果. 第65回日本腎臓学会学術総会, 神戸市, 6,12, 2022.

2) 山本 卓. CKD 患者における骨密度、骨代謝マーカーの有用性と限界. 第65回日本腎臓学会学術

総会, 神戸市, 6,12, 2022.

3) 山本 卓, 山本 恵子, 平尾 嘉利, 河内 美帆, 今井 直史, 後藤 眞, 山本 格, 下条 文武, 成田 一衛. ヘキサデシル基固定セルロースビーズに吸着する血漿タンパク質のプロテオミクス. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜市, 7,2, 2022.

4) 山本 卓. 長期透析患者の重要な透析アミロイド症の病態. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜市, 7,2, 2022.

5) 山本 卓. 討論すべき問題点を整理する d. 骨. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜市, 7,1, 2022.

6) 山本 卓. 高リン血症でもタンパク質摂取の増加を勧める医師の姿勢と血液透析患者の栄養指標・死亡との関連. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜市, 7,3, 2022.

7) Yamamoto S, Yamamoto K, Hirao Y, Yamamoto T, Yamaguchi K, Nakajima K, Goto Y, Goto S, Gejyo F, Ichiei N. Mass spectrometry-based proteomic analysis of adsorbed molecules associated with dialysis-related amyloidosis in hexadecyl-immobilized cellulose beads. 8th International symposium of amyloidosis, Heidelberg, Germany, 9,1, 2022.

8) 山本 卓, 山本 恵子, 平尾 嘉利, 山本 格, 山口 圭一, 中島 吉太郎, 後藤 祐児, 河内 美帆, 今井 直史, 後藤 眞, 下条 文武, 成田 一衛. リクセルによる β_2 -microglobulin アミロイド関連蛋白質の臨床的吸着効果. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会・総会, 10,16, 2022.

9) Yamamoto S, Zhao J, Karaboyas A, Komaba H, Jørgensen HS, Vervloet M, Mazzaferro S, Cavalier E, Bieber B, Robinson B, Evenepoel P, Fukagawa M. Skeletal responsiveness to parathyroid hormone in hemodialysis patients: International variation, association with factors and risk of fractures in the DOPPS. Kidney Week 2022, Florida, USA, 11,5, 2022.

坂井健二

1) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K. Elimination of vascular A β in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation/vasculitis. 第63回

日本神経学会総会, 東京, 5,18-21, 2022.
2) 坂井 健二, 篠原 もえ子, 田中 英智, 池田 篤平, 濱口 毅, 柿田 明美, 山田 正仁, 小野 賢二郎. 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症における脳脊髄液バイオマーカーと血管病理の解析. 第9回日本アミロイドーシス学会学術集会, 神戸, 10,16, 2022.
3) Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K. CSF biomarkers and A β elimination in CAA-related inflammation/vasculitis. 第41回日本認知症学会学

術集会, 東京, 11,25-27, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
関島 良樹	アミロイドーシス	福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成	今日の治療方針 私 はこう治療している	医学書院	東京	2022	776-777
飯田 真介	IX. 多発性骨髄腫と類縁疾患 多発性骨髄腫と類縁疾患の診かた	黒川 峰夫	日本医師会雑誌 on-line PDF 151 巻・特別号(1) 血液疾患のすべて	日本医師会	東京	2022	286-288
小池 春樹	ビタミン欠乏性ニューロパチー	神田 隆	末梢神経障害	医学書院	東京	2022	333-339
小池 春樹	COVID-19に関連した末梢神経障害	下畑 享良	COVID-19神経ハンドブック	中外医学社	東京	2022	196-201
小池 春樹	純粋自律神経失調症型のレビー小体病と免疫介在性自律神経ニューロパチー	鈴木 則宏, 荒木 信夫, 宇川 義一, 桑原 聡, 塩川 芳昭	Annual Review 神経 2022	中外医学社	東京	2022	291-296
小池 春樹	多巣性運動ニューロパチー	福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成	今日の治療指針 2023年版	医学書院	東京	2023	979
西 慎一	XII 維持透析患者にみられる病態 透析アミロイドーシス	柏原 直樹他	別冊日本臨牀領域別症候群シリーズ 25 (2022年11月30日発行)	日本臨牀社	東京	2022	190-194
山田 俊幸	AA アミロイドーシスの発症病理	山田 俊幸, 奥田 京章, 中村 正, 右田 清志, 黒田 毅	AA アミロイドーシス診療ファイル	金芳堂	京都	2022	11-25
奥田 恭章	AA アミロイドーシス診療マニュアル	山田 俊幸	AA アミロイドーシス診療ファイル 難治性炎症性診療のエッセンス	金芳堂	京都	2022	
三木 浩和, 安倍 正博	造血系・リンパ系疾患 原発性マクログロブリン血症	松村 到, 張替 秀郎, 神田 善伸	血液疾患 最新の治療 2023-2025	南江堂	東京	2022	196-198
原田 武志, 安倍 正博	IV. 白血球系疾患 2. リンパ系 13) 多発性骨髄腫	鈴木 隆浩, 竹中 克斗, 池添 隆之	専門医のための血液病学	医学書院	東京	2022	244-253
山本 卓, 成田 一衛	高齢腎不全患者の特徴、臨床像	「高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケ	高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法	東京医学社	東京	2022	83-87

		アの構築」研究班					
山本 卓, 伊藤 由美	アミロイド腎症	山縣 邦弘, 南学 正臣	腎疾患・透析最新の 治療 2023-2025	南江堂	東京	2022	141-143
山本 卓	慢性腎臓病に伴 う骨ミネラル代 謝異常（血管石 灰化、アミロイ ド骨関節症を含 む）	福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成	今日の治療指針	医学書院	東京	2022	640-643
坂井 健二, 山田 正仁	免疫グロブリン 性アミロイドー シスによるニュー ロパチー	神田 隆	末梢神経障害-解剖 生理から診断, 治 療, リハビリテー ションまで	医学書院	東京	2022	289-293

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakajima K, Yamaguchi K, Noji M, Aguirre C, Ikenaka K, Mochizuki H, Zhou L, Ogi H, Ito T, Narita I, Gejyo F, Naiki H, Yamamoto S, Goto Y	Macromolecular crowding and supersaturation protect hemodialysis patients from the onset of dialysis-related amyloidosis.	Nat Commun	13(1)	5689	2022
Hasegawa K, Uzui H, Fukuoka Y, Miyanaga D, Shiomi Y, Tama N, Ikeda H, Ishida K, Miyazaki S, Sekijima Y, Naiki H, Tada H	Abdominal fat pad fine-needle aspiration for diagnosis of cardiac amyloidosis in patients with non-ischemic cardiomyopathy.	Int Heart J	63(1)	49-55	2022
内木 宏延	いまさら聞けない アミロイドー シスって何?	Medical Technology	50(9)	996-1000	2022
Tanaka H, Matsushita H, Tokuhiko K, Fukunari A, Ando Y	Ingestion of soybean sprouts containing a HASPIN inhibitor improves condition in a mouse model of alzheimer's disease.	Biology	12(2)	320	2023
Nakahara K, Nakane S, Ishii K, Ikeda T, Ando Y	Gut microbiota of parkinson's disease in an appendectomy cohort: a preliminary study.	Sci Rep	13(1)	2210	2023
Coelho T, Waddington Cruz M, Chao CC, Parman Y, Wixner J, Weiler M, Barroso FA, Dasgupta NR, Jung SW, Schneider E, Viney NJ, Dyck PJB, Ando Y, Gillmore JD,	Characteristics of patients with hereditary transthyretin amyloidosis-polyneuropathy (ATTRv-PN) in NEURO-TTRansform, an open-label phase 3 study of eplontersen.	Neurol Ther	12(1)	267-287	2023

Khella S, Gertz MA, Obici L, Berk JL					
Yamakawa M, Nakane S, Ihara E, Tawara N, Ikeda H, Igarashi Y, Komohara Y, Takamatsu K, Ikeda T, Tomita Y, Murai S, Ando Y, Mukaino A, Ogawa Y, Ueda M	A novel murine model of autoimmune dysautonomia by $\alpha 3$ nicotinic acetylcholine receptor immunization.	Front Neurosci	16	1006923	2022
Inoue M, Muta K, Mohammed AFA, Onodera R, Higashi T, Ouchi K, Ueda M, Ando Y, Arima H, Jono H, Motoyama K	Feasibility study of dendrimer-based TTR-CRISPR pDNA Polyplex for ocular amyloidosis in vitro.	Biol Pharm Bull	45(11)	1660-1668	2022
Inoue M, Higashi T, Hayashi Y, Onodera R, Fujisawa K, Taharabaru T, Yokoyama R, Ouchi K, Misumi Y, Ueda M, Inoue Y, Mizuguchi M, Saito T, Saido TC, Ando Y, Arima H, Motoyama K, Jono H	Multifunctional therapeutic cyclodextrin-appended dendrimer complex for treatment of systemic and localized amyloidosis.	ACS Appl Mater Interfaces	14(36)	40599-40611	2022
Mizutani H, Sato Y, Yamazaki M, Yoshizawa T, Ando Y, Ueda M, Yamagata K	SIRT7 deficiency protects against A β (42)-induced apoptosis through the regulation of NOX4-derived reactive oxygen species production in SH-SY5Y cells.	Int J Mol Sci	23(16)	9027	2022
Matsushita H, Misumi Y, Masuda T, Okada M, Inoue F, Ueda M, Ando Y	Urinary transthyretin as a biomarker in ATTRv Val50Met amyloidosis	Pathophysiology	29(3)	333-343	2022
Taniguchi A, Shindo A, Tabei KI, Onodera O, Ando Y, Urabe T, Kimura K, Kitagawa K, Miyamoto Y, Takegami M, Ihara M, Mizuta I, Mizuno T, Tomimoto H	Imaging characteristics for predicting cognitive impairment in patients with cerebral autosomal dominant arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy.	Front Aging Neurosci	14	876437	2022
Nakajima M, Watari M, Ando Y, Ueda M	Asymptomatic deep venous thrombosis identified on routine screening in patients with hospitalized neurological diseases.	J Clin Neurosci	102	13-20	2022
Tanaka H, Nishida-Fukuda H, Wada M, Tokuhiko K, Matsushita H, Ando Y	Inhibitory effect of the HASPIN Inhibitor CHR-6494 on BxPC-3-Luc, a luciferase-expressing pancreatic cancer cell line.	Cell J	24(4)	212-214	2022

安東 由喜雄	「アリスのままで」にみる遺伝子診断の重さ	Brain and Never	74(12)	1331-1334	2022
Ando Y, Adams D, Benson MD, Berk JL, Planté-Bordeneuve V, Coelho T, Conceição I, Ericzon BG, Obici L, Rapezzi C, Sekijima Y, Ueda M, Palladini G, Merlini Gi	Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis.	Amyloid	29(3)	143-155	2022
Buxbaum JN, Dispenzieri A, Eisenberg DS, Fändrich M, Merlini G, Saraiva MJM, Sekijima Y, Westermarck P	Amyloid nomenclature 2022: update, novel proteins, and recommendations by the International Society of Amyloidosis (ISA) Nomenclature Committee.	Amyloid	29(4)	213-219	2022
Ichimata S, Hata Y, Katoh N, Kametani F, Yazaki M, Sekijima Y, Nishida N	Novel histopathological deposition patterns of EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 amyloidosis: an autopsy case exhibiting a possible association between AEFEMP1 amyloidosis and elastic fibres.	Amyloid	29(2)	139-140	2022
Ichimata S, Katoh N, Abe R, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Kusama Y, Sano K, Uehara T, Sekijima Y	Somatostatin-derived amyloid deposition associated with duodenal neuroendocrine tumour (NET): a report of novel localised amyloidosis associated with NET.	Amyloid	29(1)	64-65	2022
Ohashi N, Katoh N, Kasuga K, Yoshinaga T, Kametani F, Yazaki M, Sekijima Y	AH amyloid neuropathy: a novel clinical phenotype confirmed by histopathology and mass spectrometry.	Amyloid	29(2)	141-142	2022
Takahashi Y, Ohashi N, Takasone K, Yoshinaga T, Yazaki M, Roberts M, Glidden PF, Sekijima Y	CSF/plasma levels, transthyretin stabilisation and safety of multiple doses of tolcapone in subjects with hereditary ATTR amyloidosis.	Amyloid	29(3)	190-196	2022
Ueno A, Katoh N, Ezawa N, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y	Therapeutic Outcome of Lenalidomide-dexamethasone in Patients with Relapsed or Refractory Systemic Immunoglobulin Light Chain (AL) Amyloidosis : A Single-center Analysis and Review of the Literature.	Shinshu Med J	70(1)	29-38	2022
柴田 有花, 松嶋 理明, 加藤 ももこ, 張香理, 中村 勝哉, 織田 克利, 吉田 邦広, 関島 良樹, 戸田 達史, 矢部 一郎	成人発症の遺伝性神経・筋疾患における発症前診断の全国調査—治療法確立時代の体制構築に向けて—	臨床神経学	62(10)	773-780	2022
関島 良樹	核酸医薬を用いたトランスサイレチン型アミロイドーシス治療	DEMENTIA JAPAN	36(2)	258-264	2022

Kinoshita Y, Ikeda T, Miyamura T, Ueda Y, Yoshida Y, Ueda M, Haraoka S, Kushima H, Ishii H	Nodular Pulmonary Amyloidosis Associated with Sjögren's Syndrome.	Intern Med	61	877-881	2022
Takashio S, Yamada T, Nishi M, Morioka M, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Kaikita K, Tsujita K	Sex-related differences in the clinical characteristics of wild-type transthyretin amyloidosis cardiomyopathy.	J Cardiol	79	50-57	2022
Benson MD, Berk JL, Dispenzieri A, Damy T, Gillmore JD, Hazenberg BP, Lavatelli F, Picken MM, Röcken C, Schönland S, Ueda M, Westermark P	Tissue biopsy for the diagnosis of amyloidosis: experience from some centres.	Amyloid	29	8-13	2022
Takahashi K, Sasaki D, Yamashita M, Sakaue T, Enomoto D, Morioka H, Uemura S, Okura T, Ikeda S, Kono T, Hiratsuka Y, Saijo A, Yamamura N, Kitazawa S, Yamashita T, Ueda M	Amyloid deposit corresponds to technetium-99mpyrophosphate accumulation in abdominal fat of patients with transthyretin cardiac amyloidosis.	J Nucl Cardiol	29	3126-3136	2022
Tasaki M, Oishi T, Ueda M	EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1 (EFEMP1) amyloid deposits in the lower rectum from aged patient with bloody stools.	Pathol Int	72	217-218	2022
Hayashi H, Oda S, Kidoh M, Nakaura T, Morita K, Nagayama Y, Yoneda T, Takashio S, Misumi Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T	Can myocardial susceptibility quantification be an imaging biomarker for cardiac amyloidosis?	Jpn J Radiol	40	500-507	2022
Yumoto S, Doi K, Higashi T, Shimao Y, Ueda M, Ishihara A, Adachi Y, Ishiodori H, Honda S, Baba H	Intra-abdominal bleeding caused by amyloid transthyretin amyloidosis in the gastrointestinal tract: a case report.	Clin J Gastroenterol	15	140-145	2022
Takashio S, Tokitsu T, Matsukawa M, Sakaino N, Fujimoto K, Sakamoto T, Noda K, Tsunoda R, Misumi I, Hirai N, Doi H, Koide S, Mizuno Y, Hirose T, Kurokawa H, Kajiwara I, Ohba K, Miyamoto	Incidence, clinical characteristics, and diagnostic approach in transthyretin amyloid cardiomyopathy: The Kumamoto Cardiac Amyloidosis Survey.	J Cardiol	80	49-55	2022

S, Araki S, Yamamoto E, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K; Kumamoto Cardiac Amyloid Survey Investigators					
Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Ikura H, Sano M, Tasaki M, Sakai S, Ueda M, Fukuda K	Step-by-step typing for the accurate diagnosis of concurrent light chain and transthyretin cardiac amyloidosis.	ESC Heart Fail	9(2)	1474-1477	2022
Ikura H, Kitakata H, Endo J, Moriyama H, Sano M, Tsujikawa H, Sawano M, Masuda T, Ohki T, Ueda M, Kosaki K, Fukuda K	Three patients of transthyretin amyloidosis in a Japanese family with amyloidogenic transthyretin Thr49Ser (p.Thr69Ser) variant.	Eur J Med Genet	65(3)	104451	2022
Usuku H, Takashio S, Yamamoto E, Yamada T, Egashira K, Morioka M, Nishi M, Komorita T, Oike F, Tabata N, Ishii M, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Arima Y, Araki S, Oda S, Misumi Y, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K	Prognostic value of right ventricular global longitudinal strain in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Cardiol	80	56-63	2022
Inoue Y, Nakajima M, Inatomi Y, Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Uetani H, Hirai T, Ueda M	Reversible periventricular hyperintensity lesions in cerebral amyloid angiopathy (CAA): A case mimicking CAA-related inflammation.	Intern Med	61	3581-3584	2022
Oike F, Usuku H, Yamamoto E, Marume K, Takashio S, Ishii M, Tabata N, Fujisue K, Yamanaga K, Sueta D, Hanatani S, Arima Y, Araki S, Oda S, Kawano H, Soejima H, Matsushita K, Ueda M, Fukui T, Tsujita K	Utility of left atrial and ventricular strain for diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy in aortic stenosis.	ESC Heart Fail	9	1976-1986	2022
Nakashima N, Takashio S, Morioka M, Nishi M, Yamada T, Hirakawa K, Ishii M, Tabata N, Yamanaga K, Fujisue K, Sueta D, Kanazawa H, Hoshiyama T, Hanatani S, Araki S, Usuku H, Yamamoto E, Ueda M, Matsushita K, Tsujita K	A simple staging system using biomarkers for wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan.	ESC Heart Fail	9	1731-1739	2022

Kawano Y, Hata H, Takashio S, Tsujita K, Ueda M, Matsuoka M	Daratumumab, lenalidomide and dexamethasone in newly diagnosed systemic light chain amyloidosis patients associated with multiple myeloma.	Br J Haematol	198(3)	e38-e41	2022
Tasaki M, Nomura T, Uchiyama K, Misumi Y, Nakahara K, Oyama Y, Uesugi N, Ueda M	Fibrinogen Aalpha-chain amyloidosis associated with a rare frameshift pathogenic variant p. Arg547GlyfsTer21.	Amyloid	29	276-277	2022
Nishi M, Takashio S, Morioka M, Fujiyama A, Nakashima N, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Kidoh M, Oda S, Gushima R, Matsushita K, Fukushima S, Ueda M, Tsujita K	Extracardiac biopsy sensitivity in transthyretin amyloidosis cardiomyopathy patients with positive 99 mTc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings.	Circ J	86	1113-1120	2022
Morioka M, Takashio S, Nakashima N, Nishi M, Fujiyama A, Hirakawa K, Hanatani S, Usuku H, Yamamoto E, Kidoh M, Oda S, Matsushita K, Ueda M, Tsujita K	Correlation between cardiac images, biomarkers, and amyloid load in wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Am Heart Assoc	11	e024717	2022
Tahara N, Honda A, Ueda M, Fukumoto Y	Popeye's sign and transthyretin amyloidosis.	Eur Heart J	43(31)	3000	2022
Matsushita H, Misumi Y, Masuda T, Okada M, Inoue F, Ueda M, Ando Y	Urinary transthyretin as a biomarker in ATTRv amyloidosis.	Pathophysiology	29	333-343	2022
Tasaki M, Misumi Y, Nomura T, Kamba T, Ueda M	Detection of semenogelin 1 amyloidosis through immunohistochemical staining with novel antibodies developed based on mass spectrometric peptide mapping analysis.	Amyloid	29	278-280	2022
Iwahashi N, Ikezaki M, Komohara Y, Fujiwara Y, Noguchi T, Nishioka K, Sakai K, Nishio K, Ueda M, Ihara Y, Uchimura K, Ino K, Nishitsuji K	Cytoplasmic p53 aggregates accumulated in p53-mutated cancer correlate with poor prognosis.	PNAS Nexus	1	pgac128	2022
Misumi Y, Ando Y, Ueda M	Early transverse tubule involvement in cardiomyocytes in hereditary transthyretin amyloidosis; A possible cause of cardiac events.	Cardiovasc Pathol	61	107458	2022
Inoue Y, Tasaki M, Masuda T, Misumi Y, Nomura T, Ando Y, Ueda M	α -Enolase reduces cerebrovascular A β deposits by protecting A β amyloid formation.	Cell Mol Life Sci	79	462	2022

Inoue M, Muta K, Fouad A, Mohammed A, Onodera R, Higashi T, Ueda M, Ando Y, Arima H, Jono H, Motoyama K	Potential use of Dendrimer-based TTR-CRISPR pDNA polyplex for ocular amyloidosis.	Biol Pharm Bull	45	1660-1668	2022
Yagita K, Noguchi H, Koyama S, Hamasaki H, Komori T, Aishima S, Kosaka T, Ueda M, Komohara Y, Watanabe A, Sasagasako N, Ninomiya T, Oda Y, Honda H	Chronological changes in the expression pattern of hippocampal prion proteins during disease progression in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease MM1 subtype.	J Neuropathol Exp Neurol	81	900-909	2022
Shinriki S, Hirayama M, Nagamachi A, Yokoyama A, Kawamura T, Kanai A, Kawai H, Iwakiri J, Riu L, Maeshiro M, Tungalag S, Tasaki M, Ueda M, Tomizawa K, Kataoka N, Ideue T, Suzuki Y, Asai K, Tani T, Inaba T, Matsui H	DDX41 coordinates RNA splicing and transcriptional elongation to prevent DNA replication stress in hematopoietic cells.	Leukemia	36	2605-2620	2022
Usuku H, Yamamo E, Sueta D, Noguchi M, Fujisaki T, Egashira K, Morioka M, Komorita T, Oike F, Fujisue K, Hanatani S, Arima Y, Takashio S, Oda S, Kawano H, Matsushita K, Ueda M, Matsui H, Tsujita K	Time-dependent change of relative apical longitudinal strain index in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Int J Cardiol Heart Vasc	43	101146	2022
Tahara N, Lairez O, Endo J, Okada A, Ueda M, Ishii T, Kitano Y, Lee H, Russo E, Kubo T	^{99m} Tc Technetium-pyrophosphate scintigraphy: a practical guide for early diagnosis of transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail	9(1)	251-262	2022
Ueda M	Transthyretin: its function and amyloid formation.	Neurochem Int	155	105313	2022
Kidoh M, Oda S, Takashio S, Hirakawa K, Kawano Y, Shiraishi S, Hayashi H, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T	Diagnostic performance of CT-derived extracellular volume fraction versus myocardium-to-lumen signal ratio for detecting cardiac amyloidosis.	Radiology	306	e220542	2023
Goto M, Tasaki M, Ueda M	Early onset Congo red-positive fibrillary glomerulonephritis associated with glomerular DNAJB9 deposits mimicking renal amyloidosis.	Pathol Int	73	106-108	2023

Misumi Y, Tabata Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamakawa S, Nomura T, Ueda M	Binding of serum-derived amyloid-associated proteins to amyloid fibrils.	Amyloid	30	67-73	2023
Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, Bekki M, Honda A, Sugiyama Y, Igata S, Abe T, Sekijima Y, Ueda M, Ando Y, Fukumoto Y	Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Nucl Cardiol	30(1)	403-404	2023
Suzuki K, Wechalekar AD, Kin K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu L	Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA.	Ann Hematol	102(4)	863-876	2023
Muramatsu A, Kobayashi T, Kawaji-Kanayama Y, Uchiyama H, Sasaki N, Uoshima N, Nakao M, Takahashi R, Shimura K, Kaneko H, Kiyota M, Wada K, Chinen Y, Hirakawa K, Fuchida SI, Shimazaki C, Mizutani S, Tsukamoto T, Shimura Y, Taniwaki M, Teramukai S, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology Study Group (KOTOSG) Investigators	Pretreatment serum level of interleukin-6 predicts carfilzomib-induced hypertension in relapsed/refractory multiple myeloma.	Leuk Lymphoma	63(7)	1678-1685	2022
Kawaji-Kanayama Y, Muramatsu A, Sasaki N, Shimura K, Kiyota M, Fuchida S, Isa R, Fujino T, Matsumura-Kimoto Y, Tsukamoto T, Chinen Y, Mizutani S, Nakao M, Kaneko H, Kawata E, Hirakawa K, Takahashi R, Shimazaki C, Uchiyama H, Uoshima N, Shimura Y, Kobayashi T, Taniwaki M, Kuroda J; Kyoto Clinical Hematology	Clinical impacts of frailty, poor performance status, and advanced age in carfilzomib-containing treatment for relapsed/refractory multiple myeloma: post hoc investigation of the KOTOSG multicenter pilot prospective observational study.	Int J Hematol	115(3)	350-362	2022

Study Group (KOTOSG) Investigators					
Sunami K, Ikeda T, Huang SY, Wang MC, Koh Y, Min CK, Yeh SP, Matsumoto M, Uchiyama M, Iyama S, Shimazaki C, Lee JH, Kim K, Kaneko H, Kim JS, Lin TL, Campana F, Tada K, Iida S, Suzuki K; ICARIA-MM study group	Isatuximab-pomalidomide-dexamethasone versus pomalidomide-dexamethasone in East Asian patients with relapsed/refractory multiple myeloma: ICARIA-MM subgroup analysis.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk	22(8)	e751-e761	2022
Onda Y, Kanda J, Kaneko H, Shimura Y, Fuchida SI, Nakaya A, Itou T, Yamamura R, Tanaka H, Shibayama H, Shimazu Y, Uchiyama H, Yoshihara S, Adachi Y, Matsuda M, Hanamoto H, Uoshima N, Kosugi S, Ohta K, Yagi H, Kanakura Y, Matsumura I, Hino M, Nomura S, Shimazaki C, Takaori-Kondo A, Kuroda J; Kansai Myeloma Forum	Real-world effectiveness and safety analysis of carfilzomib-lenalidomide-dexamethasone and carfilzomib-dexamethasone in relapsed/refractory multiple myeloma: a multicenter retrospective analysis.	Ther Adv Hematol	13	20406207221 104584	2022
Shimazu Y, Kanda J, Kaneko H, Imada K, Yamamura R, Kosugi S, Shimura Y, Ito T, Fuchida SI, Uchiyama H, Fukushima K, Yoshihara S, Hanamoto H, Tanaka H, Uoshima N, Ohta K, Yagi H, Shibayama H, Onda Y, Tanaka Y, Adachi Y, Matsuda M, Iida M, Miyoshi T, Matsui T, Takahashi R, Takakuwa T, Hino M, Hosen N, Nomura S, Shimazaki C, Matsumura I, Takaori-Kondo A, Kuroda J; Kansai Myeloma Forum	Monocyte or white blood cell counts and β_2 microglobulin predict the durable efficacy of daratumumab with lenalidomide.	Ther Adv Hematol	13	20406207221 142487	2022

Imashuku S, Tsunemine H, Shimazaki C	18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/ computed tomography delineates involved sites in the cervical spine in Langerhans cell histiocytosis.	EJHaem	3(3)	1042-1043	2022
Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Suzuki K, Handa H, Sgibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K	Two-year outcomes of triabrutinib monotherapy in Wandenstrom's macroglobulinemia.	Cancer Sci	113(6)	2085-2095	2022
Usmani SZ, Nahi H, Legiec W, Grosicki S, Vorobyev V, Spicka I, Hungria V, Korenkova S, Bahlis NJ, Flogegard M, Blade J, Moreau P, Kaiser M, Iida S, Laubach J, Magen H, Cavo M, Hulin C, White D, Stefano VD, Lantz K, O'Rourke L, Heuck C, Delioukina M, Qin X, Nnane I, Qi M, Mateos M-V	Final analysis of the phase 3 non-inferiority COLUMBA study of subcutaneous versus intravenous daratumumab in patients with relapsed or refractory multiple myeloma.	Haematologica	107(10)	2408-2417	2022
Murakami S, Ri M, Ito M, Nakamura N, Kasahara S, Kitagawa J, Inagaki Y, Kuroda J, Yoshimitsu M, Okamoto A, Fukuhara N, Tajiri H, Iida H, Nagai H, Hanamura I, Tsujimura H, Okura M, Kurata M, Kuwatsuka Y, Atsuta Y, Iida S	Efficacy and safety of modified BLD therapy for transplant-ineligible Japanese patients with multiple myeloma.	Int J Hematol	116(4)	563-569	2022
Maruyama D, Iida S, Machida R, Kusumoto S, Fukuhara S, Yamauchi N, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno I, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I, Suzuki Y, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Fukuhara S, Tobinai Km Tsukasaki K, Nagai H	Final analysis of randomized phase II study to optimize melphalan, prednisolone, and bortezomib in untreated multiple myeloma (JCOG1105).	Cancer Sci	113(9)	3267-3270	2022

飯田 真介	特集 骨髄腫と類縁疾患 全身をみわたす診断・治療 Overview 骨髄腫の治療の概要	内科	130(4)	701-706	2022
飯田 真介	IX. 多発性骨髄腫と類縁疾患 多発性骨髄腫と類縁疾患の診かた	日本医師会雑誌	151	S286-S288	2022
Koike H, Nishi R, Yagi S, Furukawa S, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M	A Review of Anti-IL-5 Therapies for Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis.	Adv Ther	40(1)	25-40	2022
Koike H, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M.	Early ultrastructural lesions of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-versus complement-associated vasculitis.	Neuropathology	42(5)	420-429	2022
Koike H, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M.	Dosage effects of PMP22 on nonmyelinating Schwann cells in hereditary neuropathy with liability to pressure palsies.	Neuromuscul Disord	32(6)	503-511	2022
Koike H, Nishi R, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Katsuno M.	In vivo visualization of eosinophil secretion in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: An ultrastructural study.	Allergol Int	71(3)	373-382	2022
Fukami Y, Koike H, Katsuno M.	Current perspectives on the diagnosis, assessment, and management of vasculitic neuropathy.	Expert Rev Neurother	22(11-12)	941-952	2022
Fukami Y, Koike H, Iijima M, Mouri N, Nishi R, Katsuno M.	Role of complement components in vasculitic neuropathy associated with systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis.	Muscle Nerve	66(2)	175-182	2022
Adams D, Tournev IL, Taylor MS, Coelho T, Planté-Bordeneuve V, Berk JL, González-Duarte A, Gillmore JD, Low SC, Sekijima Y, Obici L, Chen C, Badri P, Arum SM, Vest J, Polydefkis M; HELIOS-A Collaborators (including Koike H).	Efficacy and safety of vutrisiran for patients with hereditary transthyretin-mediated amyloidosis with polyneuropathy: a randomized clinical trial.	Amyloid	30(1)	18-26	2023
Murakami A, Noda S, Kazuta T, Hirano S, Kimura S, Nakanishi H, Matsuo K, Tsujikawa K, Iida M, Koike H, Sakamoto K, Hara Y, Kuru S, Kadomatsu K, Shimamura T, Ogi T, Katsuno M.	Metabolome and transcriptome analysis on muscle of sporadic inclusion body myositis.	Ann Clin Transl Neurol	9(10)	1602-1615	2022

Noda S, Murakami A, Kazuta T, Hirano S, Kimura S, Nakanishi H, Matsuo K, Tsujikawa K, Yamada S, Iida M, Koike H, Kuru S, Katsuno M.	Clinical implication of denervation in sporadic inclusion body myositis.	J Neurol Sci	439	120317	2022
Tsujikawa K, Hamanaka K, Riku Y, Hattori Y, Hara N, Iguchi Y, Ishigaki S, Hashizume A, Miyatake S, Mitsunashi S, Miyazaki Y, Kataoka M, Jiayi L, Yasui K, Kuru S, Koike H, Kobayashi K, Sahara N, Ozaki N, Yoshida M, Kakita A, Saito Y, Iwasaki Y, Miyashita A, Iwatsubo T; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI), Ikeuchi T; Japanese Longitudinal Biomarker Study in PSP and CBD (JALPAC) Consortium, Miyata T, Sobue G, Matsumoto N, Sahashi K, Katsuno M	Actin-binding protein filamin-A drives tau aggregation and contributes to progressive supranuclear palsy pathology.	Sci Adv	8(21)	eabm5029	2022
小池 春樹	Charcot-Marie-Tooth病の末梢神経病理	脳神経内科	96(6)	758-763	2022
小池 春樹	現代の視点から見た末梢神経病理学	Peripheral Nerve 末梢神経	33(2)	202-207	2022
小池 春樹	失調性多発ニューロパチー	脳神経内科	98(1)	100-105	2023
望月 秀樹, 青木 正志, 池中 建介, 井上 治久, 岩坪 威, 宇川 義一, 岡澤 均, 小野 賢二郎, 小野寺 理, 北川 一夫, 齊藤 祐子, 下畑 享良, 高橋 良輔, 戸田 達史, 中原 仁, 松本 理器, 水澤 英洋, 三井 純, 村山 繁雄, 勝野 雅央,	脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言2020, 各論I	臨床神経学	62(6)	429-442	2022

青木 吉嗣, 石浦 浩之, 和泉 唯信, 小池 春樹, 島田 斉, 高橋 祐二, 徳田 隆彦, 中嶋 秀人, 波田 野琢, 三澤 園子, 渡辺 宏久					
望月 秀樹, 青木 正志, 池中 建介, 井上 治久, 岩坪 威, 宇川 義一, 岡澤 均, 小野 賢二郎, 小野寺 理, 北川 一夫, 齊藤 祐子, 下畑 享良, 高橋 良輔, 戸田 達史, 中原 仁, 松本 理器, 水澤 英洋, 三井 純, 村山 繁雄, 勝野 雅央, 青木 吉嗣, 石浦 浩之, 和泉 唯信, 小池 春樹, 島田 斉, 高橋 祐二, 徳田 隆彦, 中嶋 秀人, 波田 野琢, 三澤 園子, 渡辺 宏久	脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言2020, 各論II	臨床神経学	62(6)	443-457	2022
古川 宗磨, 小池 春樹, 勝野 雅央	頭痛の分類と新しい診断治療戦略	現代医学	69(1)	30-35	2022
深見 祐樹, 小池 春樹, 飯島 正博, 勝野 雅央	末梢神経障害における補体の役割	Peripheral Nerve 末梢神経	33(1)	50-57	2022
水野 昌宣, 前田 愛美, 小池 春樹, 寺内 貴廣, 前田 哲也	神経根の腫瘍様肥厚を認め診断に苦慮した多巣性慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の1例	脳神経内科	97(1)	126-131	2022
大山 健, 小池 春樹	IgG4関連疾患に伴う神経障害	日本臨床	80/増刊 5 免疫性神経疾患(第2版)	525-529	2022
西 慎一	透析患者特有に特有な痛みへの対応 透析関連痛	臨床透析	38(9)	1211-1215	2022
Hatano M, Anno M, Miyoshi K, Isawa K, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y, Nakamura M, Yamamoto S, Kitajima I	A Novel Grading System of Destructive Lumbar Spondyloarthropathy Based on Evaluation of the Facet Joints.	Spine	47(17)	1227-1233	2022

Iijima T, Sawa N, Nakayama Y, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Wake A, Kono K, Hoshino J, Ubara Y, Ohashi K	Vincristine, Doxorubicin, and Dexamethasone Induction before Autologous Stem Cell Transplantation in Patients with AL Amyloidosis: A Retrospective Comparison with Frontline Stem Cell Transplantation.	Intern Med	61(19)	2853-2860	2022
Hatano M, Kitajima I, Yamamoto S, Nakamura M, Isawa K, Suwabe T, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y	Dialysis-related carpal tunnel syndrome in the past 40 years.	Clin Exp Nephrol	26(1)	68-74	2022
Imoto M, Kamisako T, Watanabe K, Yamada T	Study on the mechanism of false low measurement of IgG-binding (affinity) IgM type M protein by turbidimetric immunoassay.	Clin Lab	68	2517-2525	2022
Mukai H, Miura Y, Kotani K, Kotoda A, Kurosu H, Yamada T, Kuro-O M, Iwazu Y	The effects for inflammatory responses by CPP with different colloidal properties in hemodialysis patients.	Sci Rep	12(1)	21856	2022
Momma Y, Tsuji M, Oguchi T, Ohashi H, Nohara T, Ito N, Yamamoto K, Nagata M, Kimura AM, Nakamura S, Kiuchi Y, Ono K	The Curcumin Derivative GT863 Protects Cell Membranes in Cytotoxicity by A β Oligomers.	Int J Mol Sci	24	3089	2023
Ikeuchi T, Kanda M, Kitamura H, Morikawa F, Toru S, Nishimura C, Kasuga K, Tokutake T, Takahashi T, Kuroha Y, Miyazawa N, Tanaka S, Utsumi K, Ono K, Yano S, Hamano T, Naruse S, Yajima R, Kawashima N, Kaneko C, Tachibana H, Yano Y, Kato Y, Toue S, Jinzu H, Kitamura A, Yokoyama Y, Kaneko E, Yamakado M, Nagao K	Decreased circulating branched-chain amino acids are associated with development of Alzheimer's disease in elderly individuals with mild cognitive impairment.	Front Nutr	9	1040476	2022
Kainuma M, Ouma S, Kawakatsu S, Iritani O, Yamashita KI, Ohara T, Hirano S, Suda S, Hamano T, Hieda S, Yasui M, Yoshiiwa A, Shiota S, Hironishi M, Wada-Isoe K, Sasabayashi D, Yamasaki S, Murata M, Funakoshi K, Hayashi K, Shirafuji N, Sasaki	An exploratory, open-label, randomized, multicenter trial of hachimijiogan for mild Alzheimer's disease.	Front Pharmacol	13	991982	2022

H, Kajimoto Y, Mori Y, Suzuki M, Ito H, Ono K, Tsuboi Y					
Murakami K, Ono K	Interactions of amyloid coaggregates with biomolecules and its relevance to neurodegeneration.	FASEB J	36	e22493	2022
Hamaguchi T, Ono K, Yamada M	Transmission of Cerebral β -Amyloidosis Among Individuals.	Neurochem Res	47	2469-2477	2022
Ohashi H, Tsuji M, Oguchi T, Momma Y, Nohara T, Ito N, Yamamoto K, Nagata M, Kimura AM, Kiuchi Y, Ono K	Combined Treatment with Curcumin and Ferulic Acid Suppressed the A β -Induced Neurotoxicity More than Curcumin and Ferulic Acid Alone.	Int J Mol Sci	23	9685	2022
Hikishima S, Sakai K, Akagi A, Yamaguchi H, Shibata S, Hayashi K, Nakano H, Kanemoto M, Usui Y, Taniguchi Y, Komatsu J, Nakamura-Shindo K, Nozaki I, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Yamada M	Deterioration after Liver Transplantation and Transthyretin Stabilizer Administration in a Patient with ATTR ν Amyloidosis with a Leu58Arg (p.Leu78Arg) TTR Variant.	Intern Med	61	2347-2351	2022
Watanabe-Nakayama T, Ono K	Single-molecule observation of self-propagating amyloid fibrils.	Microscopy (Oxf)	71	133-141	2022
Ochi Y, Kubo T, Baba Y, Sugiura K, Miyagawa K, Noguchi T, Hirota T, Hamada T, Yamasaki N, Kitaoka H	Early experience of tafamidis treatment in Japanese patients with wild-type transthyretin cardiac amyloidosis from the Kochi Amyloidosis Cohort.	Cir J	86(7)	1121-1128	2022
北岡 裕章	診断し最適な治療を行う 心筋症診療ガイドラインのポイント 特発性と二次性を見分ける	Medical Practice	39(9)	1286-1294	2022
北岡 裕章	心筋症	日本臨床	80(7)	1120-1129	2022
Kuwana M, Abe K, Kinoshita H, Matsubara H, Minatsuki S, Murohara T, Sakao S, Shirai Y, Tahara N, Tsujino I, Takahashi K, Kanda S, Ogo T	Efficacy, safety, and pharmacokinetics of inhaled treprostinil in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension.	Pulm Circ	13(1)	e12198	2023

Tahara A, Tahara N, Sugiyama Y, Honda A, Fukumoto Y	Multimodal imaging of pulmonary artery involvement in large vessel vasculitis.	Eur Heart J Case Rep	7(2)	ytad039	2023
Suda K, Tahara N, Bekki M, Nakamura T, Honda A, Kishimoto S, Kagiya Y, Iemura M, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y	Ongoing vascular inflammation evaluated by ¹⁸ F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients long after Kawasaki disease.	J Nucl Cardiol	30(1)	264-275	2023
Imai S, Tahara N, Igata S, Tahara A, Bekki M, Sugiyama Y, Maeda-Ogata S, Honda A, Otsuka H, Ushijima T, Okabe Y, Kaida H, Abe T, Tanaka H, Fukumoto Y, Tayama E	Vascular/perivascular inflammation in IgG4-related disease.	J Nucl Cardiol	29(6)	2920-2933	2022
Maeda-Ogata S, Tahara N, Bekki M, Tahara A, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Abe T, Ueda M, Ando Y, Hirooka Y, Fukumoto Y	Carpal tunnel syndrome as an early red-flag sign of ATTRwt amyloidosis.	J Nucl Cardiol	29(6)	3562-3563	2022
Tahara N, Sugiyama Y, Tahara A, Bekki M, Maeda-Ogata S, Honda A, Igata S, Abe T, Fukumoto Y	Reverse remodeling of small pulmonary arteries and right ventricle in pulmonary arterial hypertension.	J Nucl Cardiol	29(6)	3615-3618	2022
Tahara N, Tahara A, Bekki M, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Oba T, Abe T, Fukumoto Y	Cardiac sarcoidosis with thickening myocardium.	J Nucl Cardiol	29(6)	3619-3622	2022
Bekki M, Tahara N, Tahara A, Sugiyama Y, Maeda-Ogata S, Honda A, Igata S, Enomoto M, Kakuma T, Kaida H, Abe T, Fukumoto Y	Localization of myocardial FDG uptake for prognostic risk stratification in corticosteroid-naïve cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol	29(5)	2132-2144	2022
Yamaji K, Tahara N, Honda A, Bekki M, Maeda-Ogata S, Yoshimura H, Sugiyama Y, Igata S, Fukumoto Y	Potential high-risk sign of cough-induced transient left bundle branch block in severe aortic valve stenosis.	Eur Heart J Case Rep	6(5)	ytac194	2022
Maruhashi T, Higashi Y, Yoshida H, Tanaka A, Eguchi K, Tomiyama H, Kario K, Kato T, Oda N, Tahara N, Oguri M, Watada H, Node K	Long-Term Effect of Febuxostat on Endothelial Function in Patients With Asymptomatic Hyperuricemia: A Sub-Analysis of the PRIZE Study.	Front Cardiovasc Med	9	882821	2022

Kitakata H, Moriyama H, Endo J, Ikura H, Fukuda K, Sano M	Treatment of transthyretin His88Arg amyloidosis with RNA interference therapy: A case report.	J Cardiol Cases	25(6)	363-366	2022
Moriyama H, Endo J, Kataoka M, Shimanaka Y, Kono N, Sugiura Y, Goto S, Kitakata H, Hiraide T, Yoshida N, Isobe S, Yamamoto T, Shirakawa K, Anzai A, Katsumata Y, Suematsu M, Kosaki K, Fukuda K, Arai H, Sano M	Omega-3 fatty acid epoxides produced by PAF-AH2 in mast cells regulate pulmonary vascular remodeling.	Nat Commun	13(1)	3013	2022
Ikura H, Endo J, Kitakata H, Moriyama H, Sano M, Fukuda K	Molecular Mechanism of Pathogenesis and Treatment Strategies for AL Amyloidosis.	Int J Mol Sci	23(11)	6336	2022
Moriyama H, Endo J, Ikura H, Kitakata H, Momoi M, Shinya Y, Ko S, Ichihara G, Hiraide T, Shirakawa K, Anzai A, Katsumata Y, Sano M	Qualitative and Quantitative Effects of Fatty Acids Involved in Heart Diseases.	Metabolites	12(3)	210	2022
Kitakata H, Endo J, Ikura H, Moriyama H, Shirakawa K, Katsumata Y, Sano M	Therapeutic Targets for DOX-Induced Cardiomyopathy: Role of Apoptosis vs. Ferroptosis.	Int J Mol Sci	23(3)	1414	2022
遠藤 仁	心アミロイドーシスの診断と治療	循環器ジャーナル	71(1)	82-86	2022
遠藤 仁	心不全の原因として注目される心アミロイドーシスの新しい診断法と治療法	Medical Practice	39(9)	1357-1359	2022
Haruhara K, Suzuki T, Wakui H, Azushima K, Kurotaki D, Kawase W, Uneda K, Kobayashi R, Ohki K, Kinguchi S, Yamaji T, Kato I, Ohashi K, Yamashita A, Tamura T, Tsuboi N, Yokoo T, Tamura K	Deficiency of the kidney tubular angiotensin II type1 receptor-associated protein ATRAP exacerbates streptozotocin-induced diabetic glomerular injury via reducing protective macrophage polarization.	Kidney Int	101(5)	912-928	2022
Kurihara S, Sawa N, Inui K, Ikuma D, Oba Y, Mizuno H, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Tomita S, Okubo T, Ubara Y	Onion Skin Lesion of the Renal Small Artery in a Patient With Polymyositis and Hemolytic Uremic Syndrome.	Kidney Mid	4(10)	100539	2022

Suzuki M, Sekiguchi Y, Sasaki M, Inaba S, Oyama S, Inoue Y, Warabi M, Ohashi K, Inoshita S	Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis after COVID-19 Vaccination with Pfizer-BioNTech.	Intern Med	61(19)	2925-2929	2022
Sawamura M, Sawa N, Yamanouchi M, Ikuma D, Sekine A, Mizuno H, Kawada M, Hiramatsu R, Hayami N, Hasegawa E, Suwabe T, Hoshino J, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Ubara Y	Use of biologic agents and methotrexate improves renal manifestation and outcome in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective analysis.	Clin Exp Nephrol	26(4)	341-349	2022
Nakashima S, Sekine A, Sawa N, Kawamura Y, Kono K, Kinowaki K, Kawada M, Hasegawa E, Akuta N, Suzuki Y, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y, Hoshino J	Thrombotic Microangiopathy, Podocytopathy, and Damage to the Renal Tubules with Severe Proteinuria and Acute Renal Dysfunction Induced by Lenvatinib.	Intern Med	61(20)	3083-3088	2022
Hosoi T, Yakabe M, Sasakawa H, Sasako T, Ueki K, Kato S, Tokuoka SM, Oda Y, Abe M, Matsumoto T, Akishita M, Ogawa S	Sarcopenia phenotype and impaired muscle function in male mice with fast-twitch muscle-specific knockout of the androgen receptor.	Proc Natl Acad Sci U S A	120(4)	e2218032120	2023
Higa Y, Hiasa M, Tenshin H, Nakaue E, Tanaka M, Kim S, Nakagawa M, Shimizu S, Tanimoto K, Teramachi J, Harada T, Oda A, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Yamagami H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M	The xanthine oxidase inhibitor febuxostat suppresses adipogenesis and activates Nrf2. Antioxidants.	Antioxidants	12(1)	133	2023
Dong B, Hiasa M, Higa Y, Ohnishi Y, Endo I, Kondo T, Takashi Y, Tsoumpra M, Kainuma R, Sawatsubashi S, Kiyonari H, Shioi G, Sakaue H, Nakashima T, Kato S, Abe M, Fukumoto S, Matsumoto T	Osteoblast/osteocyte-derived interleukin-11 regulates osteogenesis and systemic adipogenesis.	Nat Commun	13(1)	7194	2022
Tanimoto K, Hiasa M, Tenshin H, Teramachi J, Oda A, Harada T, Higa Y, Sogabe K,	Mechanical unloading aggravates bone destruction and tumor expansion in myeloma.	Haematologica	107(3)	744-749	2022

Oura M, Sumitani R, Hara T, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M					
Takei M, Okada N, Nakamura S, Kagawa K, Fujii S, Miki H, Ishizawa K, Abe M, Sato Y	Genome-Wide Association Study Predicts the Onset of Dysgeusia Due to Anti-cancer Drug Treatment.	Biol Pharm Bull	45(1)	114-117	2022
Tenshin H, Teramachi J, Ashtar M, Hiasa M, Inoue Y, Oda A, Tanimoto K, Shimizu S, Higa Y, Harada T, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Sebe M, Tsutsumi R, Sakaue H, Endo I, Matsumoto T, Tanaka E, Abe M	TGF-beta-activated kinase-1 inhibitor LL-Z1640-2 reduces joint inflammation and bone destruction in mouse models of rheumatoid arthritis by inhibiting NLRP3 inflammasome, TACE, TNF-a and RANKL expression.	Clin Transl Immunology	11(1)	e1371	2022
Shimizu S, Teramachi J, Harada T, Hiasa M, Tenshin H, Oda A, Seki A, Inoue Y, Tanimoto K, Higa Y, Oura M, Sogabe K, Hara T, Sumitani R, Maruhashi T, Yamagami H, Sawa Y, Endo I, Tsuneyama K, Matsumoto T, Tanaka E and Abe M	Aberrant upregulation of the endogenous PP2A inhibitor CIP2A is vital for myeloma cell growth and survival.	International Journal of Myeloma	12(2)	14-23	2022
Miki H, Nakamura S, Oura M, Nakamura M, Sumitani R, Sogabe K, Takahashi M, Maruhashi T, Harada T, Fujii S, Hamano H, Kondo M, Okada N, Endo I, Abe M	The importance of retaining physical functions to prevent skeletal-related events in multiple myeloma patients with bone disease.	eJHaem	3(2)	480-483	2022
住谷 龍平, 安倍 正博	多発性骨髄腫の骨病変の新しいバイオマーカー	血液内科	84(5)	696-701	2022
住谷 龍平, 原田 武志, 中村 昌史, 水口 慎子, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 丸橋 朋子, 高橋 真美子, 藤井 志朗, 中村 信元, 三木 浩和, 賀川 久美子, 矢田 未央, 松立 吉弘, 上原 久典, 安倍 正博	少量 methotrexate 療法が有効であった進行期原発性皮膚未分化大細胞型リンパ腫	臨床血液	63(5)	536-543	2022

高原 由実子, 三木 浩和, 中村 信元, 林 成樹, 住谷 龍平, 大浦 雅博, 曾我部 公子, 高橋 真美子, 丸橋 朋子, 富永 誠記, 岡本 秀樹, 岡田 直人, 矢野 由美子, 高橋 真理, 大坂 朱美, 原田 武志, 藤井 志朗, 菅 俊行, 青田 桂子, 尾崎 修治, 安倍 正博	徳島県における HIV 感染症および後天性免疫不全症候群患者の臨床的特徴と今後の課題	四国医学雑誌	78(5.6)	193-198	2022
中村 信元, 三木 浩和, 安倍 正博	(11) 多発性骨髄腫 3. 造血器疾患 各種病態にみられる腎障害	日本臨床別冊 腎臓症候群 III	24	124-130	2022
中村 信元, 安倍 正博	多発性骨髄腫の発症・進展機序	臨床雑誌内科	130(4)	691-694	2022
Suzuki K, Matsumoto M, Hiramatsu Y, Takezako N, Tamai Y, Suzuki K	Once monthly elotuzumab, lenalidomide plus dexamethasone for multiple myeloma; a multicenter observation study.	Acta Haematol	146(2)	125-136	2022
Martin TG, Capra M, Mohty M, Suzuki K, Quach H, Cavo M, Moreau P, Dimopoulos M, Yong K, Tekle C, Foster MC, Barnes Y, Risse ML, Mikhael J	Isatuximab Plus Carfilzomib and Dexamethasone Versus Carfilzomib and Dexamethasone in Patients with Relapsed Multiple Myeloma: IKEMA Subgroup Analysis by Prior Transplantation.	Transplant Cell Ther	29(2)	134.e1-134.e7	2022
Ishida T, Ito S, Tanaka J, Uchiyama M, Kawano Y, Moreau P, Martin T, Risse ML, Tada K, Suzuki K, Ishizawa K	Isatuximab plus carfilzomib and dexamethasone in Japanese patients with relapsed multiple myeloma: subgroup analysis of the randomized, open label, phase 3 IKEMA study.	Jpn J Clin Oncol	52(12)	1446-1449	2022
Ri M, Suzuki K, Ishida T, Kuroda J, Tsukamoto T, Teshima T, Goto H, Jackson CC, Sun H, Pacaud L, Fujikawa E, Yeh TM, Hatayama T, Aida K, Sunagawa Y, Iida S	Ciltacabtagene autoleucel in patients with relapsed/refractory multiple myeloma: CARTITUDE-1 (phase 2) Japanese cohort.	Cancer Sci	113(12)	4267-4276	2022
Dimopoulos MA, Dytfeld D, Grosicki S, Moreau P, Takezako N, Hori M, Leleu X, LeBlanc R, Suzuki K, Raab MS, Richardson PG, Popa McKiver M, Jou YM, Yao D, Das P, San-Miguel J	Elotuzumab Plus Pomalidomide and Dexamethasone for Relapsed/Refractory Multiple Myeloma: Final Overall Survival Analysis From the Randomized Phase II ELOQUENT-3 Trial.	J Clin Oncol	41(3)	568-578	2022

Martin T, Richardson PG, Facon T, Moreau P, Perrot A, Spicka I, Bisht K, Inchauspé M, Casca F, Macé S, Van de Velde H, Suzuki K	Primary outcomes by 1q21+ status for isatuximab-treated patients with relapsed/refractory multiple myeloma: subgroup analyses from ICARIA-MM and IKEMA. Haematologica.	Haematologica	107(10)	2485-2491	2022
Martin T, Mikhael J, Hajek R, Kim K, Suzuki K, Hulin C, Garg M, Quach H, Sia H, George A, Konstantinova T, Risse ML, Asset G, Macé S, van de Velde H, Moreau P	Depth of response and response kinetics of isatuximab plus carfilzomib and dexamethasone in relapsed multiple myeloma.	Blood Adv	6(15)	4506-4515	2022
Kim K, Min CK, Koh Y, Ishizawa K, Kim SH, Ito S, Tanaka J, Uchiyama M, Kawano Y, Kim JS, Moreau P, Martin T, Dong Y, Risse ML, Suzuki K	Isatuximab plus carfilzomib and dexamethasone in East Asian patients with relapsed multiple myeloma: IKEMA subgroup analysis.	Int J Hematol	116(4)	553-562	2022
Sanchowala V, Palladini G, Minnema MC, Jaccard A, Lee HC, Gibbs S, Mollee P, Venner C, Lu J, Schönland S, Gatt M, Suzuki K, Kim K, Cibeira MT, Beksac M, Libby E, Valent J, Hungria V, Wong SW, Rosenzweig M, Bumma N, Chauveau D, Gries KS, Fastenau J, Tran NP, Qin X, Vasey SY, Weiss BM, Vermeulen J, Ho KF, Merlini G, Comenzo RL, Kastiris E, Wechalekar AD	Health-related quality of life in patients with light chain amyloidosis treated with bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone ± daratumumab: Results from the ANDROMEDA study.	Am J Hematol	97(6)	719-730	2022
Dispenzieri A, Kastiris E, Wechalekar AD, Schönland SO, Kim K, Sanchowala V, Landau HJ, Kwok F, Suzuki K, Comenzo RL, Berg D, Liu G, Kumar A, Faller DV, Merlini G	A randomized phase 3 study of ixazomib-dexamethasone versus physician's choice in relapsed or refractory AL amyloidosis.	Leukemia	36(1)	225-235	2022
Ozaki S, Handa H, Koiso H, Saitoh T, Sunami K, Ishida T, Suzuki K, Narita T, Iida S, Nakamura Y,	Propensity-score matched analysis of the efficacy of maintenance/continuous therapy in newly diagnosed patients with multiple myeloma: a multicenter retrospective collaborative study of the	J Cancer Res Clin Oncol	148(1)	191-203	2022

Suzuki K, Nishimura N, Murakami H, Shimizu K	Japanese Society of Myeloma.				
Tokai T, Takashio S, Kawano Y, Kidoh M, Oda S, Matsuoka M, Tsujita K	Assessing the treatment effect of daratumumab by serial measurements of cardiac biomarkers and imaging parameters in light-chain cardiac amyloidosis.	J Cardiol Cases	26(4)	301-304	2022
Kidoh M, Oda S, Takashio S, Hirakawa K, Kawano Y, Shiraishi S, Hayashi H, Nakaura T, Nagayama Y, Funama Y, Ueda M, Tsujita K, Hirai T	CT extracellular volume fraction versus myocardium-to-lumen signal ratio for cardiac amyloidosis.	Radiology	306(3)	e220542	2023
Kitabayashi K, Yamamoto S, Narita I	Association of the nutritional risk index for Japanese hemodialysis with mortality and dietary nutritional intake in patients undergoing hemodialysis during long-term hospitalization.	Clin Exp Nephrol	26(12)	1200-1207	2022
Shirai N, Yamamoto S, Osawa Y, Tsubaki A, Morishita S, Narita I	Dysfunction in dynamic, but not static balance is associated with risk of accidental falls in hemodialysis patients: a prospective cohort study.	BMC Nephrol	23(1)	237	2022
Kitabayashi K, Yamamoto S, Narita I	Magnesium intake by enteral formulation affects serum magnesium concentration in patients undergoing hemodialysis.	Ther Apher Dial	26(4)	749-755	2022
Yamamoto S, Bieber BA, Komaba H, Hanafusa N, Kitabayashi H, Nomura T, Cases A, Combe C, Pisoni RL, Robinson BM, Fukagawa M	Medical Director Practice of Advising Increased Dietary Protein Intake in Hemodialysis Patients With Hyperphosphatemia: Associations With Mortality in the Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study.	J Ren Nutr	32(2)	243-250	2022
羽深 将人, 山本 卓, 内木 宏延, 山本 格, 成田 一衛	プロテオーム解析	日本腎臓学会誌	64(8)	863-867	2022
山本 卓, 成田 一衛	高齢腎不全患者の特徴、臨床像	腎臓内科	15(4)	393-396	2022
山本 卓	慢性腎臓病と透析	内科	1129(6)	1311-1315	2022
山本 卓	尿毒症症候群	日本臨牀腎臓症候群		32-36	2022

山本 卓	CKD・透析患者の骨折とその対策	日本透析医学会 雑誌	37(1)	25-28	2022
Yamaguchi H, Kawahara H, Koder N, Kumaki A, Tada Y, Sakai K, Ono K, Yamada M, Hanayama R	Extracellular vesicles contribute to the metabolism of transthyretin amyloid in hereditary transthyretin amyloidosis.	Front Mol Biosci	9	839917	2022
Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, Iwasa K, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K	Effects of <i>Melissa officinalis</i> extract containing rosmarinic acid on cognition in older adults without dementia: a randomized controlled trial.	J Alzheimers Dis	91	805-814	2023
Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Tanaka H, Ikeda T, Hamaguchi T, Kakita A, Yamada M, Ono K	Cerebrospinal fluid biomarkers and amyloid β elimination from the brain in cerebral amyloid angiopathy-related inflammation.	J Alzheimers Dis	91	1173-1183	2023
Shima A, Sakai K, Yamashita F, Hamaguchi T, Kitamoto T, Sasaki M, Yamada M, Ono K	Vacuoles related to tissue neuron-astrocyte ratio and infiltration of macrophages/monocytes contribute to hyperintense brain signals on diffusion-weighted magnetic resonance imaging in sporadic Creutzfeldt-Jakob disease.	J Neurol Sci	447	120612	2023
坂井 健二	脳アミロイドアンギオパチー：最近のトピックス	老年期認知症 会誌	23	81-87	2022
坂井 健二	認知症の病理学	脳神経内科	98(2)	155-163	2023

令和5年5月1日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人福井大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 上田 孝典

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 学術研究院医学系部門・教授
(氏名・フリガナ) 内木 宏延・ナイキ ヒロノブ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学、福井大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 長崎国際大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 安東 由喜雄

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 薬学部 教授

(氏名・フリガナ) 安東 由喜雄・アンドウ ユキオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人信州大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 中村 宗一郎 (公印省略)

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・教授(氏名・フリガナ) 関島 良樹 ・ セキジマ ヨシキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 熊本大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 小川 久雄

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院生命科学研究部・教授

(氏名・フリガナ) 植田 光晴 ・ ウエダ ミツハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学、京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人地域医療機能推進機構京都鞍馬口医療センター

所属研究機関長 職 名 院 長

氏 名 水野 敏樹

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医局・名誉院長

(氏名・フリガナ) 島崎 千尋・シマザキ チヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人 名古屋市立大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 郡 健二郎

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医薬学総合研究院 (医学)・教授

(氏名・フリガナ) 飯田 真介・イイダ シンスケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立大学法人 京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東海国立大学機構

所属研究機関長 職 名 名古屋大学大学院医学系研究科長

氏 名 木村 宏

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 名古屋大学大学院医学系研究科・准教授

(氏名・フリガナ) 小池 春樹・コイケ ハルキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人神戸大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 藤澤 正人

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究科・教授

(氏名・フリガナ) 西 慎一・ニシ シンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学臨床研究審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 東京女子医科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 丸 義朗

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 腎臓内科学・教授・基幹分野長

(氏名・フリガナ) 星野 純一 ・ ホシノ ジュンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	日本透析医学会倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月6日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 自治医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 永井 良三

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部 ・ 教授

(氏名・フリガナ) 山田 俊幸 (ヤマダ トシユキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 5 年 3 月 7 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 道後温泉病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 _____ 奥田 恭章 _____

次の職員の令和 4 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 _____ 難治性疾患政策研究事業 _____

2. 研究課題名 _____ アミロイドーシスに関する調査研究 _____

3. 研究者名 (所属部署・職名) _____ 内科・院長 _____

(氏名・フリガナ) _____ 奥田 恭章 (オクダ ヤスアキ) _____

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: _____)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 検討、作成中)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 福井大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: _____)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: _____)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人金沢大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 和田 隆志

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医薬保健研究域医学系・教授
(氏名・フリガナ) 小野 賢二郎・オノ ケンジロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年2月9日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 高知大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 櫻井 克年

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 教育研究部医療学系臨床医学部門・教授

(氏名・フリガナ) 北岡 裕章・キタオカ ヒロアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月8日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 久留米大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 内村 直尚

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 循環器病センター・教授

(氏名・フリガナ) 田原 宣広・タハラ ノブヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	久留米大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 慶應義塾大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 伊藤 公平

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・専任講師

(氏名・フリガナ) 遠藤 仁・エンドウ ジン

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東京医科歯科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 田中 雄二郎

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯学総合研究科 教授

(氏名・フリガナ) 大橋 健一・オオハシ ケンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京医科歯科大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

国立研究開発法人
機関名国立循環器病研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 大津 欣也

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院病理部・部長

(氏名・フリガナ) 畠山 金太・ハタケヤマ キンタ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福井大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 徳島大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 河村 保彦

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯薬学研究部 教授

(氏名・フリガナ) 安倍 正博・アベ マサヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	徳島大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 日本赤十字社医療センター

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 中島 淳

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 骨髄腫アミロイドーシスセンター・顧問

(氏名・フリガナ) 鈴木 憲史 (スズキ ケンシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	日本赤十字社医療センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人熊本大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 小川 久雄

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院生命科学研究部・助教

(氏名・フリガナ) 河野 和 ・ カワノ ヤワラ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月15日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人新潟大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 牛木 辰男

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 血液浄化療法部・病院教授

(氏名・フリガナ) 山本卓・ヤマモトスグル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 新潟県厚生農業協同組合連合会
上越総合病院

所属研究機関長 職 名 病院長

氏 名 籠島 充

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 神経内科 部長
(氏名・フリガナ) 坂井 健二 (サカイ ケンジ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	上越総合病院	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 検討、作成中)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: 福井大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。